

能登半島地震被災地支援活動報告会

平成19年9月

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

はじめに

2006年3月25日に発生した能登半島地震の被災地では、「輪島市災害ボランティアセンター輪島」「輪島市災害ボランティアセンター門前」「穴水町災害対策ボランティア現地本部」という、3つの現地の災害ボランティアセンターを中心に、支援活動が展開されました。

「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（以下、支援P）」では、そうした地元主体の活動が効率的、効果的に展開できるよう、コーディネーターの派遣、救援物資の調整、プログラムの実施などを通じて地元をサポートしてきました。

そこで、被災地における支援活動の状況や、支援Pで調整させていただいた企業からのご支援について報告するとともに、今後の災害支援のあり方について、意見交換する機会を持つ報告会を開催いたしました。

今回の報告会では、被災者主体の災害ボランティアセンターをつくっていくためのプログラムのほか、企業からご提供いただいた物資の活用方法等についてご報告がありました。

この報告書を通じ、災害被災地現場での復興支援活動がより迅速に行われ、被災地が少しでも早く落ち着きを取り戻せる活動が行われることを願っております。

平成19年9月

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議事務局

能登半島地震被災地支援活動報告会

日 時： 7月3日(火)午後1時30分～3時30分
(終了後、4時30分まで個別情報交換会)

場 所： 経団連会館 10階 1002号室
住所： 東京都千代田区大手町1-9-4

主 催： 日本経団連1%クラブ
共 催： 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）

プログラム：

1. 開会挨拶 池田 弘一 1%クラブ会長
2. 支援P発足の経緯と活動状況
説明者： 田尻佳史 日本NPOセンター事務局長
3. 能登半島地震被災地支援活動 [ファシリテーター：石井布紀子 支援P事務局]

(1) 現地での活動報告

- ① 被災状況
- ② 災害ボランティアセンター活動状況
- ③ コーディネーター派遣

報告者： 桑原英文 市民による国際協力団体JPCOM代表 [輪島]
栗田暢之 レスキューストックヤード・代表理事 [穴水]
櫻井定宗 日本青年会議所石川ブロック協議会会長 [門前]
渋谷篤男 全国社会福祉協議会地域福祉部部長・全国ボラン
ティア活動振興センター所長

(2) 企業からの支援

- ① 物資提供
- ② 寄付(義捐金、災害ボランティア活動資金)
- ③ 活動収支報告

報告者： 長沢恵美子 日本経団連1%クラブコーディネーター
阿部陽一郎 中央共同募金会・企画広報部副部長

(3) 質疑応答

4. 閉会挨拶 本田 章博 中央共同募金 常務理事

開会挨拶

池田 弘一 1%クラブ会長

皆様、こんにちは。経団連 1%クラブの会長を務めております、アサヒビールの池田でございます。企業の皆様には日ごろよりこの 1%クラブの活動にご協力をいただきましてありがとうございます。また、災害ボランティア活動支援プロジェクトの皆様には、日頃より被災地の支援活動にご尽力をいただき、心より感謝を申し上げます。

国内外で大規模な災害が次々に発生した 2004 年度に、会員企業を対象とした調査を行いましたところ、回答企業 430 社中、97%にあたる 422 社が寄付や社内募金、自社の製品やサービスの無償提供、ボランティアの派遣など、さまざまな被災地の支援活動を展開していることがわかりました。一方、被災現場のニーズを的確に把握し、それを関係ある企業に伝え、必要とする資源を必要とする場所にタイミングよく届けるしくみを整備することが近日の課題であると思います。

経団連では 1%クラブを中心に、3 月 25 日に発生した能登半島地震においても、地震発生直後から現地の情報を収集し、支援プロジェクト会議と連携しながら企業からの支援が被災地に直接届くような情報提供、しくみを提案させていただきました。

本日は能登半島の被災地支援に関わっていた方々から、企業からの支援が現地でどのように役立ったのか、直接お話しを伺いできる良い機会だと存じます。この報告会が今後の効果的な被災地支援のしくみを考える一助になることを祈念し、開会の挨拶とさせていただきます。

支援 P 発足の経緯と活動状況

田尻佳史 日本 NPO センター事務局長

「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、略称：支援 P」の設立の経緯ですが、新潟の中越地震の発生直後、様々な団体が現地の様子を見にいき、その情報交換をしたほうがいいのではないかと集まったことが、きっかけになっております。

新潟中越地震では、被災を受けた市町村ごとに社会福祉協議会を拠点にしつつ、災害ボランティアセンターが立ち上がり、地元の NPO、JC、行政との協働によって運営するという取り組みを初めて実施しました。それを実際に検証してみないといけないのではないかという声があり、「検証プロジェクト会議」を設置いたしました。ポイントは三つで、一つ目は、共同募金が 2001 年に設置した「災害準備金制度」の運用状況や制度の検証、二つ目が「災害ボランティアセンターの機能」の検証、三つ目が次の災害に反映できる機能とすることを目標としました。

運営の体制ですが、設置主体は中央共同募金会です。委員の構成団体は、全国社会福祉協議会、青森県社会福祉協議会、福井県共同募金会、神奈川県共同募金会、経団連 1%クラブ、三井住友海上火災、レスキューストックヤード、シャンティ国際ボランティア会、JPCOM、日本 NPO センターの構成員が委員を務めています。事務局は中央共同募金会と（有）コラボ

ねっとの共同運営です。

支援 P の活動概要ですが、実施事業の検証を念頭におき、各地で起こる災害への取り組みについてストックしていくための検証を行っています。また、現地の様子や災害 VC の運営状況を調査しつつ、それぞれの地域へのアドバイスをを行っています。また、実際に必要とされる「人」の部分については全国社会福祉協議会が全国の県・市町村社会福祉協議会に派遣要請を、物資・資金に関しては経団連さんを窓口 to 各企業さんに協力の要請をしていただき、その仲介の役割を支援 P が担っています。

中越地震以降の動きですが、支援 P だけではなく、他の被災地の NPO や関係団体、さらには内閣府・防災ボランティア検討会とも連携、情報交換をしております。

災害が起きたときに、企業の皆さんからの支援は、資金援助、義援金というスタイルで被災地された自治体にもっていくことが最も多くなっております。また通年、赤い羽根共同募金で集められたお金の一部は、災害に備えて使えるように、都道府県ごとにストックされていますので、こちらに協力をされている企業の支援の一部が災害支援に充てられていることとなります。

これでもなかなか充実しないということで、新たなしくみづくりとして、「支援 P 会議」というものがあります。人、モノがうまく現地にながれ、被災者につながっていく、そしてまたそれを見えるようにフィードバックしていくことの調整機能として、災害現場での支援をしています。

能登半島地震被災地支援活動—被災状況

石井布紀子 (有) コラボねっと取締役

能登半島地震 2007 年 3 月 25 日、午前 9 時 42 分発生、マグニチュード 6.9、輪島市南西沖 約 30Km のところで発生したと言われております。9 市町村にわたって被害が渡りました。住家被害はさらに広い地域で被害が起こっています。

広域的に水道がストップし、おトイレの使用がまったく不可能になる等、門前地区は約 2 週間程度、大きな生活困難が発生いたしました。電話がつながらない、情報がいきわたらない、連絡が取り合えないという事態が発生したということになります。

現在は 4 市町に仮設住宅が合計 334 戸設置されています。以上が簡単ではありますが、大まかな被災地での被災状況の報告です。

この状況に対しまして、なんとか被災者の方の生活復興、復旧を支えようということで、旧輪島市、旧門前町、穴水に、ボランティアが駆けつけて支援をしていく動きをできるだけスムーズに調整するために災害ボランティア活動センターが立ち上がりました。

まず、輪島市の旧輪島の報告ですが、報告者は桑原英文さん、市民による国際協力団体 JPCom の代表でいらっしゃいます。では桑原さん、よろしく願いいたします。

災害ボランティアセンター活動状況

① 旧輪島市報告

桑原英文 JPCom事務局長

私は3月27日の第一便で小松に入り、能登半島に入りました。5月13日まで、計33日間、現地で活動をさせていただきました。3月28日、輪島市文化会館の2階にて災害ボランティアセンターを立ち上げることになりました。新聞の折込広告で「災害ボランティアセンターを通じ、皆さんの支援、お手伝いをします」という周知をしながら、県のボランティア本部を通じてボランティア募集をしたのは3月30日です。

地元の方々には、道のご案内とか、直接顔の見える関係で被災したお宅に訪問していただくことをさせていただきました。実際に活動を始めた3月30日には、センター初の日帰りのボランティアバスが現地にやってきました。31日には地元のボランティアのグループ化を進めていただきました。

4月21日には、避難所でもあった健康福祉センターで「映画を見る会」をしながら、震災後の顔を合わせる場として「いっぷく茶屋」を行わせていただきました。翌日には子どもたちのストレス発散ということで、思いっきりエネルギーを発散するイベントをいたしました。イベントでは、1%クラブを通じた救援物資を地元の方々の手でパッキングして配布しました。

5月11日には、地域のボランティア連絡会や食事改善、お話し相手のグループ等、さまざまな人たちに声を掛け、「輪島市災害ボランティアの会」が発足しました。5月30日には自主的に打ち合わせをされたり、また、6月5日には仮設住宅の給食会が行われました。また、仮設住宅での野菜栽培が6月10日にスタートしています。ちょうど今、健康チェックと茶話会が開催されています。さらに、「あったらいいなパック」という支援物資を配布しながら、人をつなぐ目的をもち、巡回させていただいております。

阪神淡路大震災時にボランティア活動のリーダーが言った「地震はあったけどよかったねと言えるまちにしていこう」という言葉を輪島でも聞きましたが、子ども、親、私たちから住み続けたいまちに復興していこうという強い思いを感じさせていただいています。

② 門前町報告

櫻井定宗 日本青年会議所石川ブロック協議会会長

震災発生直後、かなりの揺れがありました。ただPCメールの受発信はできましたので、JCのネットワークを使い、県内の状況を情報収集してまいりました。門前が一番大変だということがわかり、JCの災害対策本部を設立し、ボランティアセンターの立ち上がり時から活動をしてきました。当時は小学校の一室を借りて運営を行っておりましたが、災害復旧が長くなるということで、町の峠に移転をし、支援プロジェクトの皆様方から頂戴いたしましたプレハブ等々で、いろんな活動をさせていただきました。

近隣で助け合って生活をしている地域でもありましたので、当初はニーズがなかなかあがってきませんでした。その間、応援のメッセージを桜の花びらの形をした紙に書いてもらい、それらを各小学校に配布、掲示をさせてもらいました。地域の軽トラを集めたりと、毎日のように北陸電力本社からも応援に来てくださいました。また、さまざまなかたちで高校生も駆けつけてくれました。

ニーズも増え、活動を続ける中で、総持寺においてイベントを開催させていただくことになりました。また、支援 P の方々、地域の方々とともに、花で仮設住宅をいっぱいにしようという活動もさせていただきました。

ニーズの掘り起こしですが、曹洞宗の方々がお茶会(行茶)を通じて、ニーズを聞いて回ったという経緯があります。門前でも、企業の皆様方から賜りました物資を詰めた「応援パック」というものを配布させていただきました。さらに、天理教のひのきしん隊とともに家屋の撤去、引越し支援といった活動もさせていただきました。地元の中学生はさまざまな活動をビデオテープに残す活動を行ってくれました。5月27日にセンターは閉所をし、地域中心に復興のボランティアセンターが立ちあがり、活動を続けています。

③ 穴水町報告

栗田暢之 NPO 法人レスキューストックヤード代表理事

穴水町は高齢化率 38%の 1 万人規模の小さなまちです。ボランティアセンターの方針としては、3 つの方針を出しつつ、活動をしてきました。

一つは被災者本位という視点です。基本的に被災者の声に耳を傾けたわけです。地元ボランティアに外部ボランティアが同行し、地震から約 2 週間かけて全世帯を調査訪問しました。一方、民生児童委員を中心に、地震が起こった日の夕方までに全員の安否を確認できました。ただ安否確認をしたあとも、不安を解消するべく何度も訪問するわけですが、そのときに企業の方々からいただいた「うるうるパック」をお持ちし、家の玄関を開けてもらいました。つまり、一つひとつの品物をお一人おひとりに丁寧に配ったわけです。

2 つ目は地域主体という視点です。穴水町には 38 団体が加盟するボラ連協がございます。社会福祉協議会が事務局になっておられ、緊急会議を 2 回実施し、具体的な支援メニューをいろいろと作りました。ボランティアセンターはプレハブ 2 棟と物資倉庫をレンタルして外枠を整え、支援 P を通じてコピー機や事務机、椅子、レンタカーを迅速、正確にご手配いただきました。それゆえ、ボランティアセンターがすっと立ち上がることができたわけですが、センターのニーズ受付、マッチングなどを地元ボランティアで対応しました。

高齢化率 38%ということですが、もともと地元の方々がもっておられるパワーはすごいものがあります。4月26日、老人クラブの方々と、仮設住宅へと引越しされる方々のために、仮設に入れられない家財道具を一時預かりの廃校した中学校のスペースに移動されたそうです。

3 つ目の方針、「ゆっくり丁寧に」ということです。家の相談会、家屋の調査を建築士の協力でやっていただいたり、穴水町のボラ連協の主催で、避難所支援のイベントを被災者自身が開催しました。仮設住居の入居者に対する支援や学童保育の子どもたちとの交流活動も、花いっぱいプロジェクトも行われました。地元の方々がすごくがんばられたということがあります。再建のメドが立たない深刻な被害もあり、これからも応援していきたいと思っています。

コーディネーター派遣

渋谷篤男

全国社会福祉協議会ボランティア活動振興センター所長

すべての市町村に社会福祉協議会があり、市町村の社会福祉協議会の連合体が都道府県社会福祉協議会、都道府県の社会福祉協議会の連合体が全国社会福祉協議会です。

被災地現地では、地縁型の組織、自治会、町内会とのつながりが非常に強い、災害ボランティアセンターができます。もう少し大規模の災害になると、社会福祉協議会以外にもさまざまなボランティアセンターができてきます。

実際に災害が起きますと、県災害ボランティア本部、全国社会福祉協議会、ブロック幹事県、支援プロジェクト会議の 4 者が連携をとりながら、いっせいに現地入りします。さらに、県内の市町村社協が応援に入ってきます。もう少し大きい規模の災害になると、他のブロックに声をかけていくかたちになります。

支援プロジェクト会議からの派遣ですが、アドバイザーという立場で、能登半島災害ではのべ 390 名、実人数 40 名ぐらいが入りました。社協における派遣はのべ 493 名です。社協における派遣は、それぞれの社会福祉協議会法人でもって派遣費用を捻出します。支援 P の派遣は、いただいた寄付の中から派遣費用を負担させていただいています。支援プロジェクトの役割としては、企業、学校、団体と連携し、社員や生徒さんのボランティア派遣を調整することも含まれると考えています。

全国社会福祉協議会は派遣の調整を行っています。ただ、現地については全国社会福祉協議会が口を出すということではなく、支援 P のメンバーがスーパーバイズをしながら、地元主体による活動が重要であり、それを応援するしくみづくりを進めています。

企業からの物資支援

長沢恵美子

経団連1%クラブ

皆さんからいただいた物資による支援は、現金換算による総額で表すと 1630 万円。いただいた品物のリストをインターネット等で調べた価格で合算させていただいた金額になっています。

物資の流れですが、被災地の住民の方々からのニーズが現地災害ボランティアセンター

に届き、それがスーパーバイザー、コーディネーターを通じて、1%クラブや支援プロジェクト会議に流れてきます。そこで企業の皆さんに情報提供をして呼びかけさせていただき、その反応を受け、県社協や現地のボランティアセンターと調整に入ります。その後、調整の結果を現地に連絡をし、実際に企業の皆さんから物資を現地やうるうるパックの作業をする場所にお送りいただき、ボランティアセンターでご利用いただいたり、被災者に配布していただくかたちをとっています。企業の皆さんには、共同募金会より損金参入できる領収証を発行していただいています。これが全体のしくみです。

皆さんにいただいた支援ですが、用途は大きく二つです。一つは災害ボランティアセンターの運営用の資機材になっています。机や椅子といった事務局の備品、印刷機、コピー機、ボランティア用車両といったものがボランティアセンター運営には重要です。

もう一つは、直接、被災者に届いているものがあります。例えば、被災者の方々のコミュニケーションが円滑にいくようにと、うるうるパックとしてお届けしています。子どもたちのための「うるうる始業式応援パック」では、物品のほか、メッセージはがきをパック化して、配布してもらい、子どもたちからはお礼状も届いています。また、民生委員さんの訪問では「うるうる基本パック」が、保健婦さんが高齢者のご家庭を訪問するときには「うるうる応援パック」が活用されました。おかゆについてはわざわざ保健婦さんたちが温めて、もっていったそうです。

必要な物資を必要なときに必要なかたちで届けるには、そのための知恵と工夫と人手が必要です。被災者の方を応援する心を伝えるというための配布の方法というのもあります。どのように物資を出していくのかは、これからの企業側の大きな課題であり、今後、検討をしていきたいと考えています。

寄付(義援金、災害ボランティア活動資金)、活動収支 阿部陽一郎 中央共同募金会

今回の支援 P の活動の展開の重要な資金源として、災害ボランティア活動資金を活用させていただきました。能登半島地震関連として、20,281,013 円のご寄付をいただきました。あらためて、御礼を申し上げます。その使いみちですが、コーディネータ、スーパーバイザーの派遣(旅費交通費含む)・約 880 万円、イベント等の活動経費・約 260 万円、復興活動助成事業・約 350 万円です。その他、今回の地震支援に関しての検証、情報発信のためのブログの立ち上げ等を検討しています。そして、次の災害のための初動基金として 200 万円ほど利用させていただければと思っております。

義捐金の状況です。石川県、日本赤十字社石川県支部、石川県共同募金会、報道機関等に、26 億円余りの義捐金がきています。1%クラブ関係からの呼びかけによる企業さまのご寄付は大体 120 社で 4000 万円程度です。遺族の方には 40 万円のお見舞い金が出るものが

配分委員会で決まっております。各世帯ごとの被害認定を行政が調査しなおしていることもあり、まだ全世帯に義援金が配られていない状況です。

石川県には県庁が重油災害ナトホトカ号の見舞金等を原資にして、10億円規模の災害ボランティア基金を設けております。こちらの基金からも実際に被災地のボランティアセンターに、ボランティア保険代、センター運営費、ボランティアバスのチャーター代等として、約4000万円の助成がされております。

質疑応答

○地域ネットワーク確立、あるいは再確立に、学生や若者がどういうふうに関わっていけるのか。それらにボランティアセンターはどう関われるのか

輪島では地元の青年会議所、商工会の青年部の人たちがボランティアセンターで協働しています。また、穴水の高校生たちは復興を提案するプログラムに応募をし、プログラムを練っていますし、商店街の若い店主たちはピンチをチャンスにしてやっていきたいということで、毎週一回ずつワークショップをおこない、夢を描きつつある状況です。

一方、田麦山では、若い人たちが田んぼの再建について農業組合法人を作って力を結集し、田んぼを復興しています。田麦山小学校を地域の拠点として、音楽や踊りを通じて子どもたちの笑顔が地域全体の笑顔につながる活動を地震後もずっとやっています。

○支援Pと行政との関係、つながりはどうなのか

能登も2004年に発生した中越の地震の際も、実際の現場では行政職員とボランティアとの関係は対立することもあり、かなりの時間をかけてコミュニケーションをする必要があったと思われます。

支援Pとして今回うるうるパックを始めとして、さまざまな緊急のおかゆ、下着などをお届けさせていただいたのは、決してこれは行政と対抗するというのではなくて、実際にボランティアセンターにきているニーズに沿っての活動です。行政と対立ということではなくて、補完しあいながらやっていくことが大切だと考えました。思います。行政側には物資のきめ細やかな配布等のしくみが機能しにくい市町村もあり、うまく連携できればいいと思います。

○今後、どのような展開を考えているのか

能登半島の被災地に対しての助成活動を支援Pとしてさせていただきたいと思っています。また、うるうるパックのように、ただ物資を届けるだけではなく、思いの詰まったものを確実に一人ひとりに届けてお気持ちをつなぐしくみを、もう少し大規模な災害のときにどんなことができるだろうかというシュミレーションも含めて検証していく必要があるかと思っています。

この支援Pはゆるやかな組織で、いろんな人が集まり、物資を通じて多くの企業や経

団連さんが応援しているということに非常に大きな意味があると感じており、ゆるやかなところをうまく活かしてどこまで発展させていくことができるのかというところを考えていきたいと思います。情報についてですが、仲介のシステムをもったゆるやかな機能が求められるかと思います。個人からの荷物を行政が受け入れないなら、企業で社員からの物資を集め、それを分類して梱包しなおして送るなどのしくみや、災害時に企業からの提供できるモノや支援のアイデアを事前情報として出していただけるようなことを今後対話しながら考えていきたいと願っています。

閉会の挨拶

本田常務 中央共同募金会

能登半島地震の際には、数多くの心温まります寄付金を寄せてくださり、厚く御礼申し上げます。万一、全国各地で災害が起こりましたら、この支援プロジェクト会議の皆様方が現地に動き、被災されている皆様方のニーズを的確に把握させていただき、ご支援賜りました寄付金、ボランティア活動、物資といったご支援の輪を被災された方々へとお伝えさせていただきたいと願っております。

現在、地域社会で関心の高い、安心・安全な地域づくりを支援させていただくということで運動を展開させていただいております。防災という視点から日ごろの地域の町内会単位で自主的な防災体制を組み立てるためには、多くの市民の皆様方のネットワークや立ち上げ資金、人が必要です。一人でも災害で被災者を出さないよう目指し、被災時での支援とその予防のための支援という両面につままして、引き続きご支援をお願いしたいと存じます。本日はどうもありがとうございました。

以下、当日の配布資料

- ・資料 第 1-1 社会貢献活動の現状と課題(『経済 Trend』)
- ・資料 第 1-2 経団連 1%クラブニュース増刊号(3/28、4/2、4/11、4/26)
- ・資料 第 2 能登半島地震被災地支援活動報告書(全 35 頁)
- ・資料 第 3-1 能登半島地震復興支援事業
- ・資料 第 3-2 能登半島復興プロジェクトとは
- ・当日のパワーポイント資料(全 37 頁 A4 に 2 枚資料)

社会貢献活動の現状と課題

～二〇〇五年度社会貢献活動実績調査結果を踏まえて～

日本経団連社会貢献推進委員長／1%クラブ会長
アサヒビール会長

池田弘一
いけだ こういち



も、一定規模の社会貢献活動が維持されてきたことがわかる(「グラフ参照」)。

ここ数年、企業の社会的責任(CSR)への取り組みが強化されるようになり、社会貢献の位置づけや役割も変化してきている。本稿では、二〇〇五年度の社会貢献活動実績調査結果も踏まえながら、社会貢献活動の現状と今後の課題について報告する。

日本経団連では、一九九一年から会員企業と1%クラブ法人会員を対象に、「社会貢献活動実績調査」を行っている。今回は三年ごとの大規模調査六回目の年にあたり、毎年実施している支出と活動事例の調査に加え、意識調査も実施した。質問事項が多岐にわたる調査であるにもかかわらず、回答社数は四四七社となり、前回の大規模調査から一〇〇社以上増えた。会員各社の本調査への協力に対し深く感謝申しあげる。

安定した規模の社会貢献活動

一九九〇年度から二〇〇五年度までの支出額の推移を見ると、厳しい経営環境の時期一

も、一定規模の社会貢献活動が維持されてきたことがわかる(「グラフ参照」)。

二〇〇五年度の調査結果は、支出額の回答企業四〇八社の一社平均は三億五四〇〇万円となり、前年度比で〇・九%増加した。このうち、1%クラブ法人会員一四二社の平均支出額は八億一〇〇万円となり、バブル期の一九九一年度(九億三九〇〇万円)に次ぐ歴代二番目の額となった。支出額の対経常利益比は一・三八%と前年度に比べて〇・三七ポイント下がったが、これは、経常利益額の一社平均が調査開始以来最高となったことが影響している。

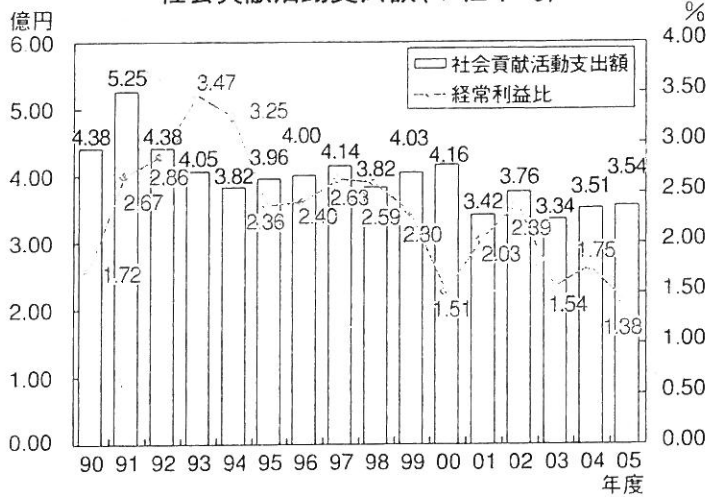
また、金額ベースの年間予算制度を導入した企業は、一九九〇年度に比べると大幅に増加(七・八%→三三・四%)する一方、経常利益比で決定している企業は大きく減少(一

CSRの一環としての浸透

社会貢献活動の捉え方として、「CSRの一環」(回答企業の八六・一%)と「地域社会への貢献」(同七五・二%)を、多くの企業が選択している。また、半数以上の企業が、「CSR元年」と呼ばれる二〇〇三年からの三年間に、「社会貢献の取り組みを強化した」と回答した。この間に社内体制の整備や制度の導入も進み、「基本方針の明文化」「専門部署や専任担当者の設置」「社内横断的組織の設置」が大きく進展した。特に、独立した専門部署を持つ企業の三七・六%が専門部署を「CSR関連部門」に置くようになってきており、二〇〇三年度(同三三・七%)に比べると大幅に増加した。

社会貢献活動の情報開示も進んでおり、「広く一般向けに開示している」と回答した企業は、一九九三年度には三割だったが、今回の調査では七割に達している。インターネ

社会貢献活動支出額(1社平均)



ット上での情報提供、CSR報告書等への記載も進んでおり、ステークホルダーから意見を聞く機会を設ける企業も出てきている。

必要となる新たなテーマの発掘や推進方法の開発

一方、CSRとの関連で、新たな課題も出てきている。

CSRへの関心が世界的に高まった背景には、世界経済の飛躍的發展や人口増に伴って

多様化、複雑化した社会問題がある。地球温暖化、エネルギー問題、水・食料資源の不安定な供給、貧困問題、地域社会・文化の崩壊などは、企業活動にとっても深刻な問題となる。こうした社会問題の解決にどう貢献していくか。それぞれの企業が、自らの経営理念に照らし合わせて、優先的な課題を選び、これまで蓄積してきた人材、技術、設備、ノウハウ、情報などを活用してイノベーションを巻き起こすことが期待されている。

その際には、企業とは異なる価値観や原理で動くNPOや専門機関との効果的な連携も必要になる。それぞれが資源や特性を持ち寄り、対等な立場で協働することにより、課題の速やかな解決と最大の効果を引き出すことにもつながる。

また企業にとっても、社会貢献活動を通して得た知見を本業に活かしていくことにより、CSRをより地に足のついたものとしていくことができるだろう。

今後、各社が企業活動全体の中で社会貢献活動を戦略的に位置づけ、ステークホルダーと連携しながら、さらに大きな社会的成果を生み出すことを期待したい。各社が説明責任を果たしながら、知恵と工夫を凝らして独自性のある活動を着実に展開していく上で役立つ情報を、委員会として提案していきたい。

経済広報

4

財団法人 経済広報センター

TEL:03-3201-1412

FAX:03-3201-1404

E-mail:keizaikoho@kcc.or.jp

特集 CSRと広報

清水正道 淑徳大学 国際コミュニケーション学部 教授

剣持 隆 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授

宮田 穰 CSC研究所 代表

企業広報研究

戦略志向型ウェブサイトの構築方法

～335社の企業調査、3400人の利用者調査を通じて～

関原 深 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
コンサルティング事業本部 経営戦略第2部
シニアコンサルタント

アジアにおける日韓の役割～韓国ジャーナリストシンポジウム～

日本経団連 1%クラブニュース増刊号 (その 19)

災害被災地支援情報

発行：(社)日本経済団体連合会 社会第二本部内 1%クラブ事務局

2007年3月28日

＜今日の情報＞

1. 能登半島地震の被災地支援について

- (1) 義援金の募集
- (2) 災害ボランティアセンター
- (3) ボランティア活動資金

1. 能登半島地震の被災地支援について

3月25日に発生した能登半島地震は、高齢化した地域を中心に大きな被害が出ていることから、被災者の方々の生活や復興支援は長期化することが予想されています。1%クラブでは、地震発生直後から現地の情報を収集し、中央共同募金会、全国社会福祉協議会、日本NPOセンター、災害関連NPOと連携しながら、現地の災害ボランティアセンターなどを通じて、被災地の人々を応援することといたしました。現在、関係者が現地入りして具体的なニーズを調査中です。物資等の支援の必要がある場合には、適宜情報提供させていただきますが、取り急ぎ、義援金やボランティア活動資金のご案内をいたします。皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

(1) 義援金の募集

石川県では義援金の募集を開始しました。義援金は、被災者の方々に直接お見舞金として届けられます。義援金の配分は、県、共同募金会、日本赤十字社の支部、報道関係など関係機関で構成する配分委員会において決定されます。義援金は構成団体それぞれが受入窓口を設けていますが、最終的には合算されて被災者の方々に分配されます。以下に共同募金会の2つの窓口をご紹介します。

①石川県共同募金会

義援金名称：「能登半島地震災害義援金」

受付期間： 3月26日（月）から9月28日（金）まで

受入口座： 北國銀行 県庁支店（普）102532
口座名／社会福祉法人石川県共同募金会

三菱東京UFJ銀行 金沢支店（普）0670425

口座名／社会福祉法人石川県共同募金会 能登半島地震災害義援金

連絡先： 〒920-8557 石川県金沢市本多町3-1-10 石川県社会福祉会館内

Tel 076-224-1212 Fax 076-222-8900

②中央共同募金会

受入口座： 三井住友銀行 東京公務部（普）155400

口座名／社会福祉法人中央共同募金会災害口

連絡先： 〒100-0013 千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル 5階

Tel 03-3581-3846 Fax 03-3581-5755

*義援金について税制上の優遇措置（所得税、法人税）をご希望される場合には、各共同募金会にご連絡いただければ後日領収書が発行されます。

*①②とも、受入口座の銀行本支店における振込みは、振替手数料が免除されます。他行からは振込手数料が必要です。

*②の場合、ATMやインターネットバンキング等でも手数料無料となりますので、詳しくは以下のホームページをご参照ください。

http://www.smbc.co.jp/infomation/notooki_jisin.html

（２）災害ボランティアセンター

石川県庁に、災害対策ボランティア本部が設置され、また被災された各市町村に災害ボランティアセンターが設置され始めました。当面は、県内からのボランティアを中心に受け入れる予定です。現在、関係者が現地入りして調整中ですので、詳細がわかり次第、ご連絡します。

①輪島市災害対策ボランティア現地本部

場所： 輪島市立門前東小学校（旧櫛比小学校）

②穴水町災害対策ボランティア現地本部

場所： 穴水町保健センター内（社協事務所）

（３）ボランティア活動資金

被災者の復興に向けた努力を支えるには、ボランティアによる応援も重要です。しかしながら、ボランティアの思い、個性、能力を活かしつつ、被災者のニーズに対応していくには、コーディネートする機能が必要です。

中央共同募金会では、新潟県中越地震を機に、「災害ボランティア活動資金」に企業（含 社員募金）からの寄付を受け入れる窓口を開設いたしました。この資金は、中央共同募金会が1%クラブとも相談の上、全国各地のNPOのコーディネート費、救援物資の運搬・調整費、中長期的な被災地主体の復興プロジェクトへの助成などとして活用される予定です。寄付が必要以上に集まった場合には、全国で発生する今後の災害に備えて積み立てることとしています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。なお、ボランティア活動資金につきましては、その用途について、寄付者の方々にご報告させていただく予定です。

○口座名義：社会福祉法人中央共同募金会

○金融機関名：みずほ銀行虎ノ門支店（支店番号：046）

○普通預金口座：2838492

【本件ご連絡先】

（社）日本経済団体連合会 1%クラブ事務局（社会第二本部内） 長沢、漆間^{うるま}

電話： 03-5204-1750

E-mail: lp-club@keidanren.or.jp

FAX： 03-5255-6255

なお、ご支援された場合には、電子メールかファックスで、支援内容について事務局までご一報いただければ幸いです。

以上

災害被災地支援情報

発行：(社)日本経済団体連合会 社会第二本部内 1%クラブ事務局

2007年4月2日

<今日の情報>

1. 能登半島地震の被災地支援について

(1) 救援物資提供のお願い

- ① 高齢者向け衣料品
- ② うるうるパック
- ③ 現地の災害ボランティアセンターの備品等

(2) ボランティアの募集

1. 能登半島地震の被災地支援について

能登半島地震の被災地では、輪島市災害ボランティアセンター(旧輪島市)、穴水町災害対策ボランティア現地本部、輪島市災害対策ボランティア現地本部(旧門前町)を中心に、被災者の方々の支援を行っています。地元主体で効率的かつ効果的な活動ができるような体制を整備するため、「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(以下、支援P会議)」をはじめとする、全国の支援部隊が動いています。1%クラブでは、同会議のメンバーとして現地情報を収集するとともに、企業からのご支援が被災地の方々に直接届くような情報提供をしていきたいと存じます。1%クラブからの呼びかけに応じて、既に次の企業からボランティアセンターや支援P会議に対してご支援をいただきました。また、多くの企業から、前号でご案内した義援金や災害ボランティア活動資金へのご協力のご報告もいただいております。この場をお借りして御礼申しあげるとともに、引き続き、よろしくご支援、ご協力のほどお願いいたします。

キヤノン： 記録用デジタルカメラの貸与 8台

トヨタ自動車： レンタカー提供 4台

ソフトバンクモバイル： 携帯電話の便宜供与 7台

<ご参考ー「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」とは>

企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会が協働し、被災地主体のボランティア活動に寄与するため、2005年1月に設置された。これまでに新潟中越地震時の災害ボランティア活動の状況調査、被災地のNPOへの助成、会議・フォーラムの開催などの活動を行っている。また、2006年夏、長野県、鹿児島県で発生した豪雨水害時には、現地災害ボランティアセンターの側面的支援などを行っている。

●災害ボランティア活動支援プロジェクト会議構成団体(順不同)

日本経団連1%クラブ、青森県社会福祉協議会・ボランティア・市民活動センター、神奈川県共同募金会、JP Com、シャンティ国際ボランティア会、全国社会福祉協議会、日本NPOセンター、福井県共同募金会、三井住友海上火災、レスキューストックヤード、コラボねっと、中央共同募金会

(1) 救援物資提供のお願い

現地入りしている支援P会議関係者を通じて、現地の災害ボランティアセンターへの救援物資提供の依頼がありました。ご寄付いただける場合には、添付の用紙に、ご提供品名、提供可能な数（単位）、発送可能日を、1%クラブ宛にご連絡いただきたいと存じます。送り先や数量等の詳細につきましては、1%クラブで調整の上、ご連絡いたします。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、ご提供いただく物品は、中央共同募金会において、カタログ価格で損金算入が可能な寄付（特定寄付枠利用）として扱うことができます。また、物資提供に関する資金的支援をしていただけるスポンサーも募集しています。

① 高齢者向け衣料品

阪神高齢者・障害者支援ネットワークの黒田理事長が避難所や在宅高齢者宅を巡回訪問したところ、下痢の方が多くなっており、至急、換えの下着が必要との報告がありました。旧門前町の現地本部を通じた高齢者用下着の提供について、以下のとおり要請がありました。同現地本部は移転の予定があるため、送り先は配送日によって異なるため、1%クラブ事務局にご相談ください。

<女性用> ズロース 300枚（M：200枚、L：50枚、S：50枚）
 シャツ 150枚（M：100枚、L：25枚、S：25枚）
 フリーサイズのソックス 100足

<男性用> ももひき 300枚（L：200枚、M：100枚）
 シャツ 150枚（L：100枚、M：50枚）
 パンツ 300枚（L：200枚、M：100枚）
 フリーサイズのソックス 100足

②うるうるパック

「うるうるパック」は、被災地域の方々が必要とする物資を一旦県外で集約し、各世帯に配付できるようにパックしてお届けするものです。これは、P会議で発案され、昨夏の長野県、鹿児島県で発生した豪雨水害時に、日本経団連と1%クラブ会員企業のご協力を得て初めて実施されました。被災者とボランティアとのコミュニケーションの潤滑油としての有効性も確認されています。今回は、以下のように3段階に分けて、輪島（門前含む）、穴水の災害ボランティアセンターを通じて、被災者にお届けしたいと存じます。

<第1弾： 基本パック>

- 数量： 5000パック
- 配布先： 各地域の避難所、被災住民、高齢者世帯など
- 作業日程： 4月4日（水）、5日（木）
 物資の搬入
 4月6日（金）、7日（土）
 レスキューストックヤード（愛知県）にてパック作成
 4月7日（土）作業後、現地へ向けて配送
 4月8日（日）配布開始
 *なお、基本パックは長期的に活用する。
- 内容案： ①タオル、②石鹸、③ウエットティッシュ、④軍手、⑤お菓子、
 ⑥その他、⑦パック用袋

<第2弾：始業式応援パック>

- 数量： 1000パック
- 配布先： 被災地の小学校（1年から6年、もしくは低学年）
- 作業日程： 4月5日（木） 物資の搬入
4月5日（木） 午後5時～
日本経団連1%クラブ（東京都内）でパック化して現地へ配送
4月9日（月）原則、この日で配布完了
- 内容案： ①文具（鉛筆、ノート、消しゴム、など）、②お菓子、③その他、
④パック用袋

<第3弾：生活応援パック>

*第1弾、第2弾の終了後に調整し、再度ご案内しますが、現時点でのご協力の可能性について、ご連絡いただければ幸いです。

- 数量： 500パック
- 配布先： 仮設住宅生活者、半壊家庭など
- 配布時期： 4月28日（土）頃。仮設への移転時期
- 内容案： ①ダンボール、②ガムテープ、③カレンダー、④清掃道具（雑巾、バケツなど）、⑤手袋（水仕事用）、⑥石鹸、洗剤など、⑦飲料（500mlのお茶など）、⑧その他 [梱包はダンボール使用]

③現地の災害ボランティアセンターの備品等

現地の災害ボランティアセンターは、中長期の生活・福祉支援に向けて体制を移行しつつあります。それに伴い、現時点で、以下のような備品について要請がありました。

スタッフジャンパー	100枚（L：50枚、M：50枚）
カップ	1000枚
皮製軍手	300枚
長机（60cm×1.2m）	20本
パイプイス	70脚
コピー機	2台
印刷機	2台
コピー用紙 A4（5000枚）	30箱
A3（2500枚）	20箱
カラー・コピー用紙〔黄色、緑、ピンク〕	A4（5000枚）各5箱

(2) ボランティアの募集

1%クラブでは、「うるうるパック」第2弾：始業式応援パックの詰め合わせ作業のためのボランティアを募集します。火急のお願いで恐縮ですが、学校が始まる4月9日（月）までに配布できるよう、よろしくご協力のほどお願いいたします。また、名古屋での作業もボランティアを募集しておりますのであわせてご案内いたします。

<東京での作業>

- 作業日： 4月5日（木）午後5時～終了時まで（目標：8時30分 終了）
*途中からの参加でも結構です。
- 場所： 経団連会館 7階 第2会議室（東京都千代田区大手町1-9-4）
(<http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/pro013.html>)

*お手伝いいただける場合は、E-mailかFAXにて、1%クラブ事務局までご連絡ください。

<名古屋での作業>

●作業日： 4月6日（金）午後3時～8時（予定）
4月7日（土）午前9時～午後2時（予定）

●場所： 名古屋市中川区戸田三丁目1311番地

*お手伝いいただける場合は、以下にご連絡ください。

特定非営利活動法人レスキューストックヤード 担当：清野（せいの）さん

TEL:052-783-7727 FAX:052-783-7724

事務局：info@rsy-nagoya.com

【本件ご連絡先】

(社)日本経済団体連合会 1%クラブ事務局（社会第二本部内） 長沢、^{うるま}漆間

電話： 03-5204-1750

E-mail: lp-club@keidanren.or.jp

FAX： 03-5255-6255

以 上

[日本経団連 | 1%クラブ]

日本経団連1%クラブニュース増刊号

災害被災地支援情報

発行:(社)日本経済団体連合会 社会第二本部内 1%クラブ事務局

2007年4月11日

能登半島地震の被災地支援について

能登半島地震の被災地支援の活動状況についてご報告いたします。皆様のご支援ご協力に感謝いたしますとともに、引き続き、よろしくお願いいたします。

(1) 現地視察報告

4月7日(土)から8日(日)にかけて、1%クラブ事務局員が、中央共同募金会のスタッフとともに、輪島市災害ボランティアセンター(旧輪島市)、穴水町災害対策ボランティア現地本部、輪島市災害対策ボランティア現地本部(旧門前町)を訪問いたしました。

まだ春浅い能登半島は、朝晩の冷え込みも厳しく、被災者の中には体調を崩される方が増えているようです。現在、ボランティアセンターでは、清掃、ゴミ運搬、片付け等のボランティア活動と平行して、自治会や老人会などとの話し合いの場を持つなど、地元主体での中長期の生活・福祉支援の体制づくりも進められています。センターは、地元の社会福祉協議会(社協)と青年会議所を中核として、県内や東海・北陸ブロックの社協から派遣された職員の支援を得ながら運営されています。

また、「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(以下、支援P会議)」では、災害ボランティアセンター運営の経験者を中心に派遣して支援や連絡調整にあたっています。『1%クラブニュース増刊号(3月28日発行)』でご案内した「災害ボランティア活動資金」は、救援物資の運搬・調整費、中長期的な被災地主体の復興プロジェクトへの助成のほか、こうした支援部隊の経費にもあてられています。これまで蓄積されてきたノウハウは、人のつながりを通じて着実に広がりつつあります。

(2) 救援物資「うるうるパック」第1弾、第2弾のご報告とお礼

『1%クラブニュース増刊号(4月3日発行)』でご提供をお願いした救援物資「うるうるパック」第1弾、第2弾は、会員企業の皆様のご協力を得て無事実施することができました。それぞれの状況をご報告いたしますとともに、4月末を予定している第3弾:生活応援パックについては、後日、詳細をご案内いたします。

<第1弾:基本パック>

基本パックは、特定非営利活動法人 レスキューストックヤード(名古屋)で4月6日、7日に、各戸に配付できるよう袋詰め作業を行って送り出しました。荷受・パック化作業にはのべ55名のボランティアが参加しました。

門前に届けた1500パックは、4月11日に高校生が道路清掃を行いながら配付して下さることになっています。穴水の300パックは、4月11日、民生委員・ボランティアが一人暮らしの高齢者を中心に家庭訪問して、ご要望を聞きながらお届けする予定です。

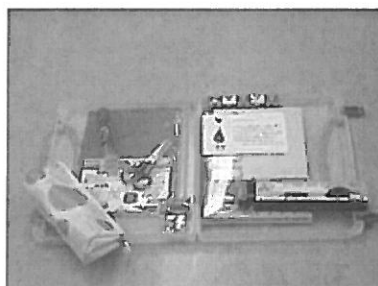
残りについては、名古屋建設業協会のご協力により、一旦、同事務所で保管いただき、追加の物資が集まったところで、再度、現地に送る予定です。



<第2弾:始業式応援パック>

始業式応援パックは、経団連1%クラブ(東京)で4月5日夕方に作業を行い、合計1000セットを門前と穴水に送りました。作業には、70名のボランティアや支援P会議関係者が参加して効率的に行われ、手書きのメッセージを書いたカードも添えました。

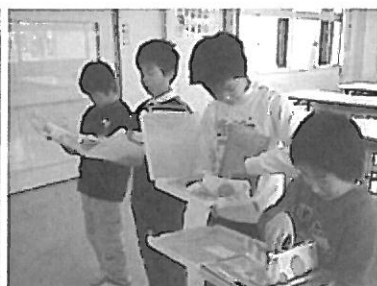
穴水では4月9日に、穴水町社会福祉協議会の大坊俊治事務局長が、5つの小学校を訪問して、代表の生徒たちに渡してくださいました。



始業式応援パックのセット内容



穴水小学校での贈呈式



何が入っているかな

門前では、4月10日と11日に、輪島市災害対策ボランティア現地本部(旧門前町)の赤坂センター長代理がボランティアとともに、門前中学校、門前東小学校、門前西小学校を訪問して贈呈してくださいました。子どもたちからは「かっこいい!」という声が聞かれ、下校時にうれしそうにケースを提げて帰る子どもたちの様子が町の人から伝わってきたそうです。

また、輪島市災害ボランティアセンター(旧輪島市)では、児童センターと連携しつつ、4月21日に開催するイベントでの福袋の配付、育児サロンでの乳幼児スキンケア・衛生用品などの配付を行う予定です。

今回の救援物資の提供に関しては、以下の企業にご協力いただきました。また、今回は実現しなかったものの、その他の企業からもさまざまなお申し出をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

なお、災害ボランティアセンターへの備品や高齢者向け物資の提供、義援金やボランティア活動資金の寄付等については、次号以降でご報告いたします。

<ご協力いただいた企業(順不同)>(4月9日現在)

●基本パック:

エーワン精密(タオル2000本)、花王(石鹼1200個)、資生堂(石鹼2040個)、大和証券グループ本社(ウェットティッシュ3000個)、東京ガス(タオル41本)、東京海上日動火災保険(タオル480本、軍手240組)、東京電力(タオル315本)、日本たばこ産業(ミニタオル30,000本)、三井住友海上火災保険(タオル64本)、三菱地所(石鹼23個、タオル110本等)、明治製菓(飴5040箱)、ユニ・チャーム(ウェットティッシュ5008個)

●始業式応援パック:

コクヨ(ドキュメントケース1000個、ノート5冊パック1020パック、ペンケース1000個、水のり1000個、ハサミ1000丁、消しゴム2個パック1000パック、下敷き1000枚)、三菱東京UFJ銀行(鉛筆1000ダース)、明治製菓(サイコロキャラメル5個パック1120パック)

●福袋など:

アサヒビール(ジュース1000本、菓子500パック)、旭精機工業(鉛筆8ダース、A4ノート49冊)、カルビー(スナック菓子1080個)、住友商事(3色サインペン250セット)、損害保険ジャパン(フェイスタオル35本、定規280個、クリップと入れ物200個)、松下電器産業(メモ帳100冊)

【本件ご連絡先】

(社)日本経済団体連合会 1%クラブ事務局(社会第二本部内) 長沢、漆間(うるま)

電話 : 03-5204-1750

E-mail: 1p-club@keidanren.or.jp

FAX : 03-5255-6255

以 上

[1%クラブのホームページへ](#)

[日本経団連 | 1%クラブ]

日本経団連1%クラブニュース増刊号

災害被災地支援情報

発行:(社)日本経済団体連合会 社会第二本部内 1%クラブ事務局

2007年4月26日

能登半島地震の被災地支援について

能登半島地震の被災地支援の活動状況についてご報告いたします。皆様のご支援ご協力に感謝いたしますとともに、引き続き、よろしくお願いいたします。

(1) 現地災害ボランティアセンターの活動状況

石川県では、輪島市、旧門前町、穴水町の3つの現地災害ボランティアセンターが活動を続けています。また、同規模の被害があった七尾市でも、社会福祉協議会のボランティアセンターが中心になって被災者の支援を行っており、3つのセンターとの連携も始まっています。家具やゴミの片付け・運搬、清掃などに加え、被災児童や親子の居場所づくり、気分転換や元気づけのイベント開催など、地域型活動のきっかけづくりも行われています。その一部をご紹介します。

4月14日(土)、15日(日)に門前で開催された「こども“うきうき”あそぼう会」には、全国各地から国民体育大会などのキャラクターが大集結！子どもたちはトランポリンやおもちゃづくりなどをし、元気いっぱい過ごしました。15日には同じ会場で、「地域のお茶の間」も開催されました。

4月21日(土)には、輪島市児童センター・子育て支援センターで、30年前の輪島を舞台にした映画『北国の少年たち』という映画を上映し、お茶を飲みながら一息つく時間を持ちました。

穴水町では、4月21日(土)に「ほっと一息つきましよう会」を開催。地元小学生の合唱団による合唱を聞き、みんなで一緒に歌いながら、「助けあい、支えあいながら一緒に乗り越えていこう」と結束を強める会となりました。



兵庫国体のマスコット
ハバタンと遊ぶこどもたち



合唱をする穴水の子どもたち

(2) 今後の動き

ゴールデン・ウィーク中には仮設住宅への引越しが始まる予定です。石川県、石川県社会福祉協議会、3つの災害ボランティアセンターによる合同会議が開催されるなど、今後の体制づくりも進められています。

ボランティアセンターでは、引越しの手伝い、児童館の支援のほか、子どもたちも参加する「県民花いっぱい運動」と連携して、仮設住宅の周囲に花を植えたプランターを設置する活動なども行って行く予定です。

1%クラブニュース増刊号(4月3日発行)「災害被災地情報」においてご案内した、引越し時の「うるうるパック」第3弾は、地元主体で「新生活応援パック」として実施されることになりました。ご協力の準備をいただいていた企業の皆様には大変恐縮ですが、ご理解いただきたくお願いいたします。なお、今後も個別に調整させていただく可能性がありますので、引き続きよろしくご願いたします。

(3) 救援物資、事務所備品等の提供に関するご報告とお礼

1%クラブからご提供をお願いした救援物資や災害ボランティアセンターの事務所備品については、以下の企業にご協力いただきました。また、今回は実現しなかったものの、その他の企業からもさまざまなお申し出をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

<ご協力いただいた企業(順不同)>

(4月25日現在/1%クラブニュース増刊号(4月3日発行)、(4月11日発行)報告分を除く)

●高齢者向け物資:

味の素(おかゆ5022個、バック5000枚)、グンゼ(婦人シャツ150枚、ズロース300枚、紳士シャツ150枚、紳士パンツ300枚、ズボン下300枚、ソックス200足)、住金物産(婦人シャツ125枚、紳士シャツ175枚、紳士パンツ290枚、ズボン下200枚)、住友商事(紳士半袖シャツ200枚)、日本毛織(ソックス100足)

●災害ボランティアセンター備品等:

キヤノン(複合機の無償貸与2台)、ソニー(長机30本、イス40脚、事務機とイス5セット、ホワイトボード1台)、日産自動車(車両の無償リース4台)、ミズノ(スタッフ用ウィンドブレーカー100着)、リコー(印刷機の無償貸与2台、A4用紙15万枚、A3用紙5万枚等)

●その他:

アサヒビール(緑茶500ml 2400本)、伊藤忠商事(水500ml 2400本)、伊勢丹(買い物バック1000個)、白井松新薬(ポリエステル原反、20リットルポリ容器・・・数量調整中)、損害保険ジャパン(卓上カレンダー等141個)、三井住友海上火災保険(カレンダー50個)

<その他、お申し出をいただいた企業(順不同)>

あいおい損害保険(カレンダー、タオル、ウェットテッシュ)、アジレント・テクノロジー(デニムシャツ)、キッコーマン(レトルト食品等)、KYB(太陽電池式投光機)、住友商事(カレンダー)、ダイドーリミテッド(紳士靴下)、中越パルプ工業(コピー用紙)、三菱重工業(カレンダー)、ユニリーバ・ジャパン(石鹸)、ライオン(洗剤等)

(4) 企業による被災地支援の状況について

4月25日17:00までに、各社から1%クラブへご報告いただいた支援状況は、ホームページにおいて公開しております(添付資料<PDF>をご参照ください)。追加・修正等がある場合は、主題に「能登支援報告/会社名」を記載したE-mailを1%クラブ宛にお送りくださるようお願いいたします(第一次締切り:5月11日)。

【本件ご連絡先】

(社)日本経済団体連合会 1%クラブ事務局(社会第二本部内) 長沢、漆間(うるま)

電話 :03-5204-1750

E-mail:1p-club@keidanren.or.jp

FAX :03-5255-6255

以 上

[1%クラブのホームページへ](#)

能登半島地震被災地支援活動 報告書

2007年7月3日

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

目次

	ページ
I. 能登半島地震に関する被害の状況	1
II. 災害ボランティア活動センター運営状況	
輪島市（旧輪島市）	6
輪島市（旧門前町）	10
穴水町	15
七尾市、志賀町	19
各災害VCにおけるボランティア活動人数	20
シャトルバス運行状況	21
門前 ボランティア数・ニーズ件数	22
III. 人員派遣状況	24
IV. 物資活用状況	26
V. 資金活用状況	30
(参考) 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の取り組み	35

I. 能登半島地震に関する被害の状況

1 人的被害・住家被害等(人、棟) (H19.6.25 現在の状況)

(1) 人的被害

(人口数は H19.2.1 現在推計)

	人口数	死者	重傷者	軽傷者
七尾市	60,848		17	110
輪島市	32,104	1	44	69
珠洲市	17,433			3
羽咋市	24,222			1
津幡町	36,147			1
志賀町	23,177		4	41
中能登町	18,847		3	
穴水町	10,353		3	36
能登町	21,108		2	10
計	244,239	1	73	271

(2) 住家被害

(世帯数は H19.2.1 現在推計)

	世帯数	全壊	半壊	一部損壊	非住家被害
金沢市	184,010				16
七尾市	21,555	50	238	2,262	333
小松市	36,744				2
輪島市	11,994	498	1,017	7,663	2,806
珠洲市	6,455			154	23
加賀市	26,325			6	6
羽咋市	8,213	3	13	107	27
かほく市	10,718	3	2	17	11
白山市	35,867				7
能美市	15,345				1
宝達志水町	4,666		3	21	1
津幡町	11,273			2	1
志賀町	7,887	10	202	2,251	779
中能登町	6,096	3	6	158	13
穴水町	3,778	72	92	998	227
能登町	7,694	1	10	190	18
計	398,620	640	1,583	13,829	4,271

※今後、詳細調査の進展に伴い、住家の被害区分が変更となることもある。

※川北町、野々市町、内灘町の3町では、被害は発生なし

2 避難者数

(ピーク時)

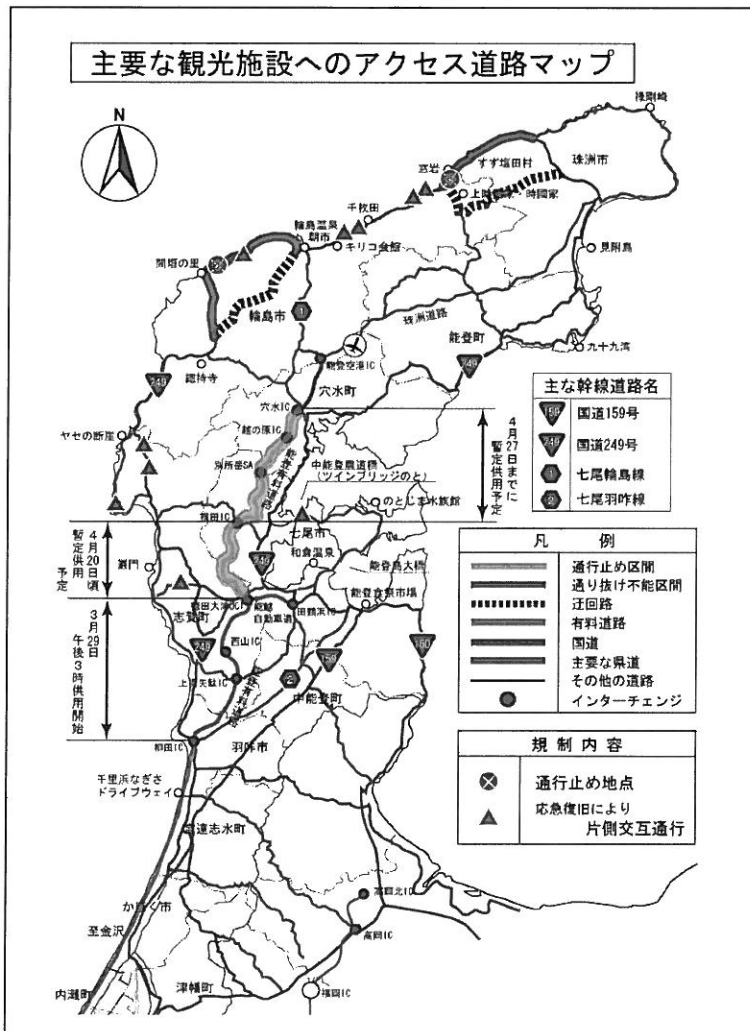
避難所数 :	47カ所	2,624人	(3月26日6:00時点)
七尾市 :	7カ所	60人	
輪島市 :	26カ所	2,214人	
志賀町 :	6カ所	198人	
中能登町 :	1カ所	3人	
穴水町 :	6カ所	136人	
能登町 :	1カ所	13人	
避難勧告 :	9世帯	13人	(3月31日)

3 ライフライン被害状況

(1) 道路の通行止

(ピーク : 3月25日 18路線24カ所)

県道等4路線4カ所、北陸自動車道 なし



(参考)

3月25日現在、通行止め区間

(能越自動車道)

能登空港インター-穴水インター

徳田大津ジャンクション-田鶴浜インター

(能登有料道路)

穴水インター-柳田インター

(国道249号)

輪島市内、志賀町内で4箇所通行止め

3月26日現在、通行止め区間

(能越自動車道)

能登空港インター-穴水インターが

通行止め解除

3月27日現在、通行止め区間

(能越自動車道)

徳田大津ジャンクション-田鶴浜インター

3月29日15時開通

(能登有料道路)

横田インター-穴水インター

徳田大津ジャンクション-横田インター

3月29日15時開通

柳田インター-徳田大津ジャンクション

(国道249号)一部で通行止め

(2) 鉄道

(北陸線) 一部区間で運転見合わせ→全線で再開(3/26 朝)

(七尾線) 全線運転見合わせ、津幡－和倉温泉駅間は 3/26・午前に復旧予定
27 日全区間復旧

(のと鉄道) 全区間運転見合わせ→3/30・全線再開(穴水～七尾 33.1 キ)

(3) 空港

(能登空港) 滑走路亀裂で閉鎖→3/26 再開、平常運用

(4) 水道

	輪島市	穴水町	能登町	志賀町	七尾市
3/25 18:30	5300 世帯断水	550 世帯断水	2100 世帯断水	1050 世帯断水	600 世帯断水
3/26 16:00	4900 世帯断水	550 世帯断水	全世帯復旧	298 世帯で 給水制限	160 世帯断水
3/27 11:00	4900 世帯断水	50 世帯断水		21:00～5:00 2900 世帯で 給水制限	1 地区 6 世帯 断水
3/27 16:00	2356 世帯断水	50 世帯断水		2950 世帯断水	全世帯復旧
3/28 12:00	1483 世帯断水	全世帯復旧		50 世帯水が出 にくい	
3/28 17:00	1363 世帯断水			18 世帯水が出 にくい	
3/29 17:00	1363 世帯断水				
3/30 7:00	1033 世帯断水			//	
3/31 7:00	823 世帯断水			//	
4/2 8:00	470 世帯断水				
4/2 15:00	281 世帯断水				
4/3 19:00	50 世帯断水				
4/3 19:00	断水解消				

(5) ガス

3月25日、輪島市、七尾市等石川県北部で都市ガスは供給されず。

家庭用ガスマーターが震度を感じて自動停止、19:00・900件の問い合わせ

(6) 電話

3月25日 13:47 一時のつながりにくさ・解消

「災害用伝言ダイヤル(171)」のサービス開始 (対象:市外局番「076」始まる番号)

4. 震度情報等の発表状況

日時	被災概況、災害 VC 立ち上げまでの動き
3月25日 9:42	マグニチュード6.9 震源の深さ約11km 震度6強 七尾市、輪島市、穴水町 震度6弱 志賀町、中能登町、能登町 震度5強 珠洲市 震度5弱 羽咋市、宝達志水町、かほく市 震度4 金沢市、小松市、加賀市、津幡町、内灘町、白山市

能登半島沖地震発生当日(3月25日)の動き

時間	概況
9:42	能登半島を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生 石川県七尾市田鶴浜町、輪島市門前町等で震度6強を観測 七尾市大田火力発電所2号機が自動停止 JRは北陸線など7線で運転見合わせ
9:45	政府が官邸対策室設置、関係省庁の局長らを官邸に招集、 防衛省が災害対策室を設置
11:00	七尾市の一部、志賀町など約500戸停電、金沢港で20センチの津波を確認
11:08	谷本石川県知事が陸自金沢駐屯地司令に災害派遣要請
11:15	警察庁は愛知、岐阜、福井、新潟県警に広域緊急援助隊(約400人)の派遣を指示
12:30	石川県が災害対策本部設置、会議後、輪島市内の現地対策本部に。
14:20	金沢駐屯地の陸自隊員が輪島市門前町へ向け出発
16:00	同駐屯地の給水車などが輪島市へ向け出発、気象庁「震度6の余震があり得る」と発表 災害救助法が石川県内7地域に適用 石川県七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋郡志賀町、鹿島郡中能登町、 鳳珠郡穴水町、鳳珠郡能登町
16:26	防災担当相を団長とする政府調査団が空自輪島分屯基地に到着
17:00	関係省庁会議 気象庁報告・・・七尾市、輪島市、穴水町で震度6強、16時までに99回の余震を観測 消防庁報告・・・死者1名、重軽傷者162名、全壊45棟、半壊227棟、 輪島市1127人、七尾市10人が避難 警察関係報告・・・愛知・岐阜・福井・新潟の緊急救援隊220名を派遣 (11:08 石川県知事より自衛隊派遣要請 等)
18:00	門前西小学校などで自衛隊員が約1000人分のおにぎり配布

被災地の状況










5. 仮設住宅の設置状況等（入居開始日）（6月25日16:00現在）

地区		仮設戸数	引渡し日	引渡し戸数
輪島市 (4カ所 250戸)	宅田町	20	4/28	20戸 (19世帯 39人)
	山岸町	50	5/3	50戸 (50世帯 102人)
	門前町館	30	4/28	30戸 (30世帯 60人)
	門前町道下	150	4/30	150戸 (150世帯 338人)
穴水町 (1カ所 45戸)	大町	45	4/30	45戸 (44世帯 90人)
志賀町 (2カ所 19戸)	富来領家町	10	5/1	9戸 (9世帯 32人)
	鶴野屋	9	5/1	8戸 (8世帯 19人)
七尾市 (3カ所 20戸)	小島町	10	5/8	10戸 (10世帯 28人)
	田鶴浜町	5	5/8	4戸 (4世帯 14人)
	中島町浜田	5	5/8	4戸 (4世帯 13人)
計 (10カ所 334戸)		334		330戸 (328世帯 735人)

Ⅱ. 災害ボランティア活動センター運営状況

■輪島市（旧輪島市）■




名称	<p>「輪島市災害ボランティアセンター」（旧輪島市） 4月3日～「輪島市災害ボランティアセンター輪島」と名称変更 5月12日～社協事務所に移転(リース備品返却、電話番号は同じ)</p>					
						
場所	輪島市河井町 輪島市文化会館内					
TEL	(9:00～17:00)					
運営体制	センター長(輪島市ヘルパーステーション所長)、輪島市社協職員、石川県社協・堀内さん、小千谷JC・宮崎さん等中心で運営体制作りを実施					
活動期間						
活動日	活	動	内	容	ボ ラ 受 付 数	ニ ー ズ 受 付 件 数 (対 応)
3月30日	金	家具の運び出し・清掃・避難者応援グッズの作成など			226	
3月31日	土	灯籠の解体、ゴミ捨て作業、瓦礫の片付けなど 足湯実施			99	42
4月1日	日	ニーズ調査、物資の運搬、車両でのゴミの運搬など			138	
4月2日	月	ゴミの運搬、ガラス破片の片付け等			30	12
4月3日	火	ゴミの廃棄、物品の運搬等			63	
4月4日	水	チラシのポスティング、屋内外の片付け、物資整理、炊きだし等			102	
4月5日	木	ニーズ調査、災害ゴミ回収、掃除等の活動			110	23(24)
4月6日	金	市民向けチラシ(ニーズ調査)を朝刊に折り込み配付 災害ゴミ片付け等の活動を実施			16	13
4月7日	土	倒れた家具の移動、ゴミ回収等			65	
4月8日	日	家財の持ち運び、ゴミ(家具・衣類)の搬出、救援物資整理等			78	10
4月9日	月	救援物資整理、清掃、避難所の毛布運搬・調理等			57	18
4月10日	火	家具の回収・後片付け、家具等の運び出し、清掃の活動			63	12




4月11日	水	家具等の運搬、片付け、移動、清掃活動、はがれた壁の撤去	149	24
4月12日	木	家具等の運搬・片付け、荷物の廃棄、救援物資の仕分け等	13	14
4月13日	金	家具等の運搬・片付け・廃棄、救援物資の移動、粗大ゴミの搬送等	11	17
4月14日	土	家具等の運搬・片付け・廃棄、救援物資の移動、粗大ゴミの搬送等	90	5
4月15日	日	家具等の運搬・片付け・廃棄、救援物資の移動、粗大ゴミの搬送等	66	3
4月16日	月	家屋モルタル・廃材の片付け等	4	5
4月17日	火	墓石のずれ直し、ゴミの片付け、 居室の片付けと寝る場所の確保 被災者応援プログラム「千羽鶴」第一号完成	0	5(3)
				
4月18日	水	家電製品の廃棄、墓石のズレ直し	4	11(9)
4月19日	木	家具の運搬、廃棄など。地元ボラと共にくるうるパック詰め作業	0	5(3)
				
				
4月20日	金	災害ゴミの廃棄など	0	5(3)
4月21日	土	映画上映会イベント、家屋のかたづけ、白壁の撤去など	32	6(3)
				
				
4月22日	日	墓石の移動、家財運び、施設訪問、子どもたちのストレスケアイベント(子ども向けボクシング教室やエクササイズ実施等)	48	13(8)
				
				
4月23日	月	ゴミ処理および運搬 など	3	11(4)
4月24日	火	ガレキ運び、金属類等の処理 など	11	9(4)
4月25日	水	引越し手伝い、ボラセン移動手伝い、VC事務所移転	6	2(2)
4月26日	木	災害ゴミ出し、ブロック塀撤去 など	6	19(8)
4月27日	金	ゴミ出し、センターの片付け など	3	8(3)

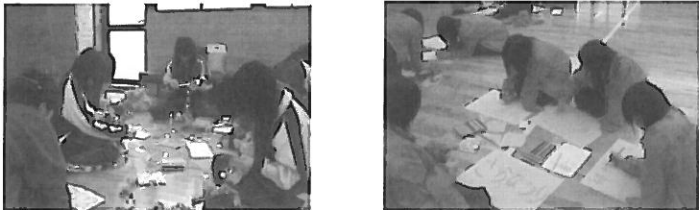


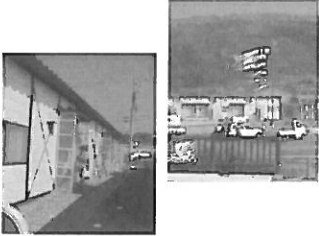
4月28日	土	引越し、家具移動、棚の処分 など ふれあい健康センターの避難所が本日にて終了 仮設住宅入居説明会（上野中学校）開催に出席→ 引越しボランティアボランティアについての説明と受付を行う	6	11(6)
4月29日	日	引越し、家具の片付け、家具の移動 など センター運営時間変更、朝礼 8:30・終礼 17:00・センター退出 17:15	46	13(8)
4月30日	月	木材の廃棄、家具移動、ゴミ出しなど。終礼 16:30 開始	25	7(4)
5月1日	火	物資詰め、活動物資の移動、片付け など	4	9(3)
5月2日	水	うるうるパック詰め、壊れた家具等の処分 など	14	14(6)
5月3日	木	仮設住宅引越し、うるうるパック移動、 茶碗配布の会の茶碗詰め 山岸地区の仮設住宅入居説明会を開催、 宅田地区の仮設住宅にて状況調査を実施	20	16(10)
5月4日	金	仮設への引越し、家具廃棄、家屋調査、仮設入居者にあつたらしい ねパック(山岸地区 18 世帯、宅田地区 6 世帯)に配布	37	13(11)
5月5日	土	ピアノの移動、土壁の運び出し、あつたらしいねパック仕分け・配 布(山岸地区 7 世帯、宅田地区 7 世帯) など	23	8(6)
5月6日	日	あつたらしいねパック配布、災害ゴミの運搬、コンサートの看板作 成など	3	5(5)
5月7日	月	あつたらしいね引越し応援パックの配布、ダンスの移動、災害ゴミ をクリーンセンターへ移動等。能登半島復興プロジェクトで復興シ ールのデザインを募集するため、市内の高校に募集チラシを配布。	6	7(3)
5月8日	火	“アンサンブル金沢”のミニコンサートの企画・運営、食器の配布、 うるうる親子パック、うるうる子どもパックを配布など	10	7(1)
				
				
				
		(茶碗配布の会)		
5月9日	水	仮設住宅への引越し、電化製品等の廃棄、ふれあい健康センターの 掃除など	3	10(7)

5月10日	木	土壁の処分	2	6(1)
5月11日	金	仮設住宅への荷物の運搬、地震で倒れた雪ぶりの処分など 「能登半島地震支援を考える会」を開催	5	7(3)
5月12日	土	仮設住宅への引越し、納屋にタンス等を運搬など	3	4(2)
5月13日	日	仮設住宅への引越し	1	3(1)
5月14日	月	あったらいいねバックの袋詰め	16	1(1)
5月15日	火	土壁の廃棄作業	3	3(1)
5月16日	水	土壁の廃棄作業	6	3(1)
5月18日	金	引越しのお手伝い、荷物の運搬	7	4(2)
5月19日	土	うるうるバック(引越し用)詰め作業	6	3(1)
5月22日	火	家具の移動や廃棄	9	10(4)
5月23日	水	家具の移動や廃棄など	1	7(5)
5月24日	木	家具の移動など	1	4(4)
5月27日	日	被災者へのカウンセリング	1	1(1)




■■輪島市(旧門前町)■■

名称	3月27日～「輪島市災害対策ボランティア現地本部」を設置 4月3日「輪島市災害ボランティアセンター門前」と名称変更		
			
場所	(～4月4日) 輪島市門前町走出 輪島市立門前東小学校(旧櫛比小学校) (4月5日～) 〒927-2164 輪島市門前町道下サンセットパーク内 準備金より、36畳2棟、17畳1棟のコンテナハウス設置		
TEL	768-42-1945 (9:00～16:00) メール info-vc@monzen.hikarinet.jp (4/11～開通)		
本部長	輪島市社会福祉協議会事務局長 七尾幸子氏、4/5～赤坂氏中心		
活動期間	3月28日(水)～4月4日(水)		
活動日	活 動 内 容	ボラ 受付数	ニ ーズ受 付 件 数 (対 応)
3月26日	月 災害ボランティアセンター設置のピラ張り、口頭説明		
3月27日	火 JCと連携し、センター設置の準備、13時～センターを開設		
3月28日	水 家の家財等の整頓、ブロック塀の撤去作業など	178	29
3月29日	木	299	38
3月30日	金 家具の運び出し・清掃・避難者応援グッズの作成など	311	
3月31日	土 灯籠の解体、ゴミ捨て作業、瓦礫の片付け、足湯の実施など	968	128
4月1日	日 屋内・屋外の片付け作業	1216	83
4月2日	月 家屋内外の片付け等	279	82
4月3日	火 瓦礫の撤去、清掃等の活動	553	63
4月4日	水 自衛隊の炊き出し支援、配食の手伝い、ボランティアセンター引越 作業等 ※雪のため、11:30で屋外活動は中止	581	31
4月5日	木 ガレキの片付け等	259	54(42)
4月6日	金 屋内外の片付け、清掃を中心とした活動	381	45

4月7日	土	廃材をクリーンセンターへ運搬、ブロック壊し等 桜の花びらプロジェクト活動実施  	326	27
4月8日	日	清掃、ゴミ運搬、片付け等の活動	379	34
4月9日	月	荷物の運搬、納屋・物置の片付け・運搬等	191	30
4月10日	火	ガレキ処理、うるうるパック配布、片付け、家具等の運び出し、 ゴミの搬出	207	29
4月11日	水	ガレキ処理、家屋の清掃、家財道具の運び出し ゴミの一時集積場の確保、うるうるパックの配布活動	560	53(32)
4月12日	木	災害ゴミ処理、ブロック・土塀の取り壊し、子ども向け行事の手伝い等	286	42
4月13日	金	災害ゴミ処理、ブロック・土塀の取り壊し、子ども向け行事の手伝い等 高校生ボラおよび親子 100 名が参加	404	49(25)
4月14日	土	災害ゴミ処理、ブロック・土塀の取り壊し、子ども向け行事の手伝い等 (300名の炊き出しほか)子ども 70名、大人 35名程度が参加	235	39(35)
4月15日	日	災害ゴミ処理、ブロック・土塀の取り壊し、子ども向け行事の手 伝いなどの活動	248	39
4月16日	月	ゴミの廃棄、崩れた土蔵の土の回収、家財道具の搬出等 ニーズとのマッチングはポストイット方式に転換	79	30(21)
4月17日	火	壁・ガレキの処理、土嚢作りなど	181	42(22)
4月18日	水	廃材処理、荷物運び、ごみの分別、石とうろの移動など	83	36(18)
4月19日	木	廃材処理、荷物運びなど	85	31(18)
4月20日	金	廃材処理、荷物運び、ガレキ片付け 民生委員と共うるうるパックを持参、 配布しながら各家庭を訪問など 	116	33(19)
4月21日	土	道路の清掃、チラシの配布、お茶会の実施など	273	38(36)
4月22日	日	ガレキ撤去、家財運び、民生委員さんと区長訪問など	92	23(12)
4月23日	月	ガレキ運び、道路清掃など	101	31(16)
4月24日	火	ごみ回収作業、ガレキの運搬・廃棄	92	24(16)

4月25日	水	<p>イベント準備、チラシ配り、木くずの運搬など 金沢辰巳丘高等学校の生徒さんがV参加(チラシ配布や工作作業)</p> 	156	27(7)
4月26日	木	<p>ゴミ回収、部屋の片付け、荷物の移動、屋根のシートかけ等</p>	57	33(17)
4月27日	金	<p>ガレキの処理、荷物の運搬、イベントの準備など</p>	67	23
4月28日	土	<p>ガレキ処理、イベント手伝い、ゴミの清掃など 曹洞宗、北陸学院高校ボランティア などの協力によりイベント実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マジックショー ・落語鑑賞 等 	114	17
4月29日	日	<p>引越しの手伝い、ガレキの処理、家屋の片付けなど 33名の北電さんの協力で深見地区の仮設住宅への引越しスタート →阿岸公民館(避難所)30日に閉鎖</p>	91	31
4月30日	月	<p>引越しの手伝い、おかゆ詰め、ゴミの撤去、家屋の片付けなど</p>	54	52(25)
5月1日	火	<p>引越し、物資詰め、ゴミの撤収、家屋の片付け、 「花いっぱい運動」プロジェクト始動 仮設の談話室でお茶会実施、深見地区の仮設引越しお手伝い</p> 	96	33(24)
5月2日	水	<p>家財運搬、ゴミ処理、避難所清掃、片付けなど</p>	36	30(9)
5月3日	木	<p>引越し、ガレキ処理など</p>	131	37(26)
5月4日	金	<p>廃材土嚢詰め、クリーンセンターへの運搬など。 仮設住宅の敷地にこいのぼり設置。 あったらいいね引越しパックを 館地区の仮設住宅に。</p> <p>あったらいいね 引越しパックを もって仮設訪問</p> 	80	35(26)



5月5日	土	引越しの手伝い、災害ゴミの運搬、あったらいいね引越しパックの配布など	80	30(24)
5月6日	日	ゴミの積み下ろし、廃材の処理、イベントのチラシ配りなど	29	24(11)
5月7日	月	ガレキ・廃材の処理、仮設住宅のプランターに応援メッセージを貼付け(門前中1・3年生)、仮設住宅でのお茶会(20名参加)など	167	17(10)
				
5月8日	火	ゴミの積み下ろし、イベントのチラシ配布など ボランティア受付窓口をプレハブ内に移動し、活動紹介と合流	38	26(8)
5月9日	水	家具の運搬。災害ゴミ捨て、ガレキ・廃材処理など。お茶会開催	46	25(10)
		 (道下の引越し)		
5月10日	木	災害ゴミの処理、家具の移動、ガレキ処理、蔵の整理など	12	25(9)
5月11日	金	家電をクリーンセンターへ搬送など、	30	52(12)
5月12日	土	廃棄物の処分など 「ゴミ一掃撤去」活動(深見地区)実施ーひのきしん隊と北電で対応	60	35(15)
				
5月13日	日	廃棄物処理等	67	36(23)
				
5月14日	月	あったらいいねパックの袋詰め	11	27(6)
5月15日	火	廃材の運搬等	81	35(23)
5月16日	水	家具などの片付け、仮設住宅への引越し、荷物の運搬など	23	20(9)



		曹洞宗青年会による仮設住宅での行茶を実施		
5月17日	木	ゴミの片付け、廃棄など	20	19(5)
5月18日	金	災害ゴミの片付け、廃棄など	12	19(10)
5月19日	土	廃材の撤去、物資の運搬など 災害の状況を記録に残そうと 中学生がV活動	49	20(13)
				
5月20日	日	チラシセットの配布、ガレキ処理等	58	19(14)
5月21日	月	災害ゴミの片付け、仮設住宅の支援、物資配布等	29	14(9)
5月22日	火	ものの移動、ゴミ処理、あったらいいねパッケの配布	5	12(7)
5月23日	水	廃棄物の処理、引越し作業、資機材返却整理	25	14(10)
5月24日	木	仮設訪問、家具の移動、VC引越し準備	31	11(11)
5月25日	金	センタープレハブ撤去のための荷物運び出し	7	2(1)
5月26日	土	センタープレハブ撤去のための荷物運び出し	9	3(2)
5月27日	日	イベントの準備、実施、片付け	0	2(1)
		 		
5月28日	月	イベント片付け	18	2(1)
5月29日	火		2	
5月30日	水		0	
5月31日	木		0	

■■穴水町■■

名称	「穴水町災害対策ボランティア現地本部」		
			
場所	〒927-0027 石川県鳳珠郡穴水町川島タの 38 番地 穴水町社会福祉協議会内		
TEL	0768-52-0378 fax.0768-52-1142		
本部長	穴水町社会福祉協議会事務局長 大坊俊治氏 体制図・別紙 1		
活動期間	3月28日(水)～4月4日(水) 4月2日・VCの延期が決定		
活動日	活 動 内 容 等	ボ ラ 受 付 数	ニ ー ズ 件 数
3月25日	日 民生委員が午前・午後高齢者宅訪問し、ニーズ確認を実施		
3月26日	月 穴水町災害対策ボランティア現地本部を設置		
3月27日	火 ボラ連と社協で地区町内会長にVC設置のチラシを配布、町内公共施設にチラシを配布、有線放送にて前町内に一斉放送を実施		
3月28日	水 避難所の訪問活動を開始、訪問活動によって得た個別要望に対応。高校生ボラ 60名をはじめ、地元ボランティアも積極的に活動中	108	23
3月29日	木 高校生ボラ・・・被災者へのメッセージ横断幕の作成、避難所貼付 婦人会や民生委員らによる炊き出し、避難所の環境整備(掃除、布団・洋式便座搬入等	116	25
3月30日	金 家具の運び出し・清掃・避難者応援グッズの作成など	53	
3月31日	土 灯籠の解体、ゴミ捨て作業、瓦礫の片付け、掃除、足湯の実施、民生委員さんらと共に避難所巡回など	276	33
4月1日	日 3箇所の避難所を1箇所に、場所は「キャッスル真名位」という公共施設。ガレキの片付け、家の中の清掃、避難所の引越手伝い、足湯実施、地元婦人会らによる被災者への声かけ隊活動 等	154	49
4月2日	月 民生委員さんらと共に避難所巡回、地元婦人会による被災者への声かけ隊活動、ガレキの片付け、家の中の清掃、作業所等への訪問活動など	114	

4月3日	火	地元婦人会による被災者への声かけ隊活動、ニーズ調査、ゴミ・家電製品の運搬等の活動	104	
4月4日	水	避難所訪問、ニーズ把握（声かけ）、ゴミ分別・収集等の活動	178	
4月5日	木	避難所訪問、ニーズ把握（声かけ）、ゴミ分別等の活動 避難者ニーズの記録・伝達のプロセスを引き継ぐ記録フォーム作成	223	24
4月6日	金	ニーズ把握（声かけ）、ゴミ処理等の活動 民協役員会にて一人暮らしの高齢者等への訪問活動実施が決定	139	22
4月7日	土	家具の移動、ニーズ調査、チラシ配付等 保健センター隣接の駐車場内に設置したプレハブにて活動開始	171	
4月8日	日	家具等の清掃センターへの運搬、避難所対応等	21	23
4月9日	月	家具等の移動、避難所の荷物整理、チラシ配布等 在宅被災者向け「家の相談会」を実施(17名の町民が参加) 被災地お見舞いパック「うるうる子ども版」を町内小学校5箇所・全校児童415名に配布	103	21
4月10日	火	家具診断、ニーズ掘り起こしのチラシ配布、避難所訪問、清掃・ゴミの分別の活動 民生委員を通じ、一人暮らし高齢者被害調査・・・222人に被災地お見舞いパック「うるうるパック大人版」を配布 在宅被災者向け「家の相談会」を実施(5名参加) 木耐協、日本民家再生リサイクル協会による家屋調査実施	99	21
4月11日	水	家屋診断の同行、チラシ配布、ゴミの分別処理の活動 木耐協、日本民家再生リサイクル協会による家屋調査実施	189	40
4月12日	木	家屋診断の同行、家具の運搬、訪問活動（ニーズ調査）等 木耐協、日本民家再生リサイクル協会による家屋調査実施 被災者の現状や要望を行政に報告	377	40
4月13日	金	ゴミ処理・分別、家財道具の運搬・片付け、チラシ配り等	418	9
4月14日	土	ゴミ処理・分別、家財道具の運搬・片付け、チラシ配り等 報告書(①元中学校教師を中心とする町内廻り、②民生委員による一人暮らし高齢者被害状況調査、③家に関する専門家相談会結果)を行政に提出。	94	7
4月15日	日	ゴミ処理・分別、家財道具の運搬・片付け、チラシ配り等	61	26
4月16日	月	避難所訪問、家具の移動、がれきの搬出など	8	3
4月17日	火	ボランティア連絡協議会「能登半島地震緊急会議」を実施 ボラ連加盟団体37中、約20団体が参加し、意見交換 民生委員、ボランティアによる一人暮らし高齢者222名へのニーズ調査を実施	4	

4月18日	水	ボランティア待機用プレハブを地元V活動拠点として環境整備	6	
4月19日	木	仮設住宅応援会議開催(引越し支援について地元ボラ連と協議)	5	
4月20日	金	仮設住宅応援会議開催(引越し支援について地元ボラ連と協議) 避難所訪問、仮設住宅の視察	10	
4月21日	土	困ったときはお互いさま 穴水応援プロジェクト企画開催 1. 少年少女合唱団トリプルラネット(穴水小、住吉小児童 25名による合唱、育児サークルによる歌と手作りガブトのプレゼント) 2. カラオケ大会  	9	
4月22日	日	仮設住宅応援タオル袋詰めなど	3	
4月23日	月	仮設住宅新生活応援 V 募集チラシ作成、避難所廻り、障子の張替え・冷蔵庫の運搬など	9	
4月24日	火	避難所訪問活動など	6	
4月25日	水	避難所での話し相手、足湯の提供等の活動	13	
4月26日	木	仮設住宅説明会の実施、説明会後に「引越し応援パック」を配布、家屋調査訪問	8	
4月27日	金	仮設住宅への引越しのニーズ調査、避難所訪問、被害住宅の目視調査等の活動、避難所元気付け企画「元気アピール大会」(地元Vによる詩吟や踊り、歌を披露)	74	
4月28日	土	避難者の家財道具を荷物置き場へ移動・仮設住宅用救援物資(布団、食器)の荷造り作業など	13	
4月29日	日	新生活応援パック(カレンダー、石鹸等)に入れる応援メッセージ作成・パック化作業など	14	
4月30日	月	仮設入居者への鍵受け渡しに伴い、地元・県内企業から寄付されたお茶碗セットと布団セットを各戸に配布 引越しニーズとボランティアの振り分けを実施	14	
5月1日	火	穴水学童にて中京女子大生による人形劇などのお楽しみ会を実施 引越し作業(53名のボラ活動)、能登町民生委員18名による被災者提供品(45世帯分、米・水)の仕分け・メッセージカード作成、配布	59	
5月2日	水	穴水高校生60名による手作り表札を作成、引越し作業	90	
5月3日	木	引越し作業、仮設住宅での御用聞きボランティア、北陸電Vによ	73	

		る配線手伝い、IH 使い方表示などの V 活動を実施。 金沢市伏見高校生による表札、メッセージ、足湯案内チラシを配布		
5 月 4 日	金	仮設住宅応援パックの配布、引越し作業 	7	
5 月 5 日	土	仮設住宅内での足湯マッサージとお茶会を実施、引越し作業 	15	
5 月 6 日	日	仮設住宅内での足湯マッサージとお茶会を実施	20	
5 月 7 日	月	仮設住宅内での足湯マッサージとお茶会を実施	17	
5 月 8 日	火	仮設住宅内での足湯マッサージとお茶会を実施	1	
5 月 9 日	水	仮設住宅内での足湯マッサージとお茶会を実施、第 2 回ボランティア連絡協議会・のと半島地震緊急会議の実施(活動報告&今後の支援活動等に関する協議)	2	
5 月 10 日	木	地元ボランティア連絡協議会等の活動へ移行 給食サービス打ち合わせ、仮設住宅自治会発足にむけて会議	2	
5 月 12 日	土	仮設住宅花いっぱいプロジェクト 	30	

■■七尾市■■

日付	内容
3月28日	被災者のニーズ調査を実施 災害VCの設置の要・不要を検討 (七尾市社協・広沢事務局長、北山事務局次長、藤野地域福祉課長、七尾市災対策課長級2名、廣岡・石川県社協、宮崎・富山県社協、萩沢・小矢部市社協にて協議)
3月29日	民生委員を通じて状況調査実施・・・ボランティアニーズ発掘、把握
3月31日	七尾市社協ボランティアセンターにて被災ニーズを受け付け
4月1日	七尾市社協ボランティアセンターが、職員とボランティアで被災者宅を訪問 ニーズ調査を実施 →約30件の依頼あり。市内のボランティアや民生委員、市の災害対策本部と連携して対応 民生委員と地域福祉推進委員で見守り活動を実施
4月6日	積み残しニーズなし、1日問い合わせ数件程度

■■志賀町■■

災害ボラ本部設置なし

4月6日時点での状況---避難所は以下3ヶ所

- ・ 笹波集会所(志賀町笹波ツ68) 11人、
- ・ 領家町コミュニティセンター(志賀町富来領家町ナ30-4) 9人、
- ・ 稗造第二センター(志賀町鶴野屋口の川) 25人

4月8日時点での状況

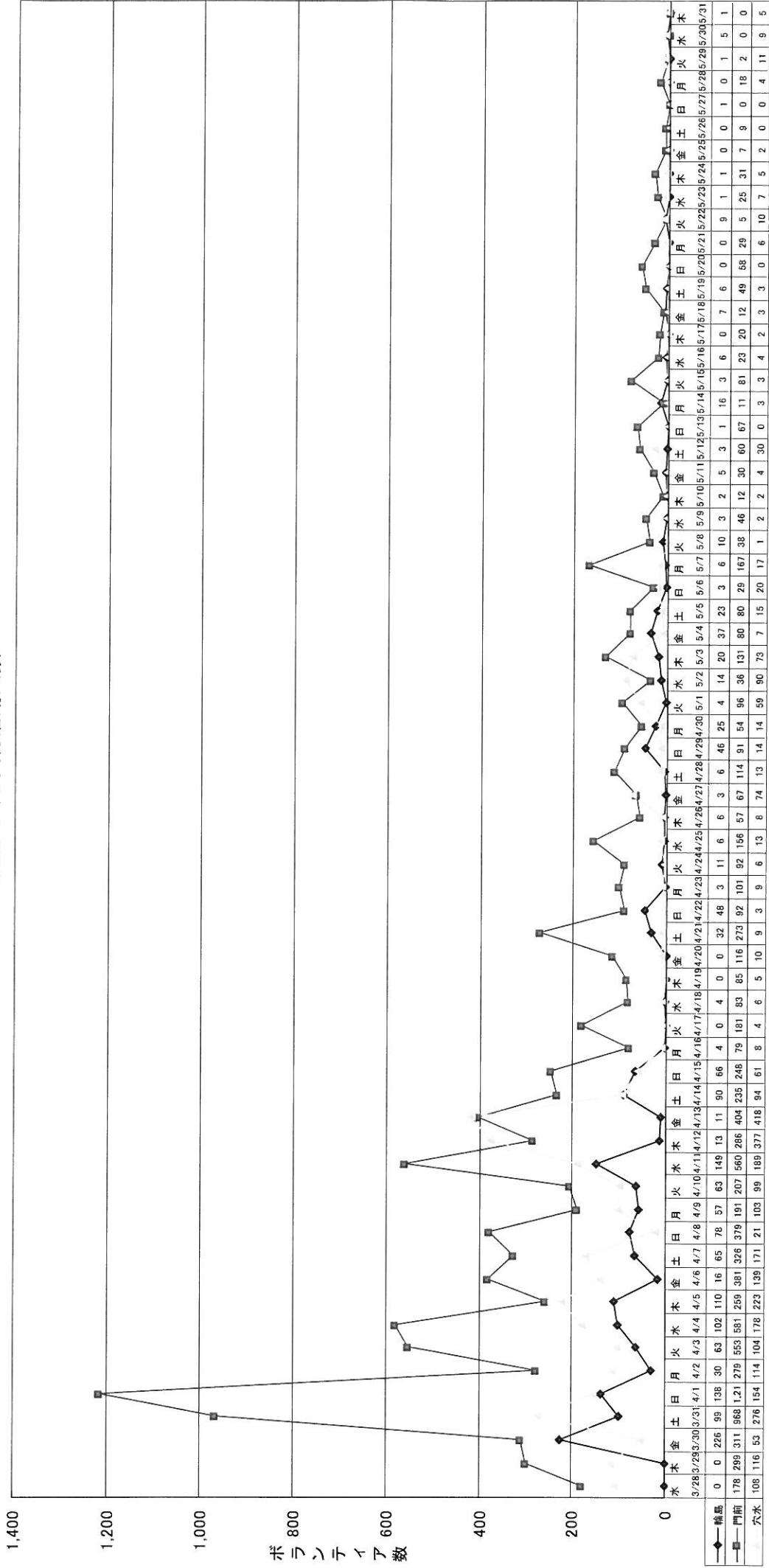
仮設住宅9戸追加で19戸に

社協連絡先

社協名	連絡先
輪島市社会福祉協議会 門前支所	〒927-2153 鳳珠郡門前町字深田 21-17-1 Tel. 0768-42-0772 Fax. 0768-42-0901
輪島市社会福祉協議会	〒928-0001 輪島市河井町 20 部 1-1 文化会館 2 階 Tel. 0768-22-2219 Fax. 0768-22-9627

各災害VCにおけるボランティア活動人数

ボランティア受付活動人数

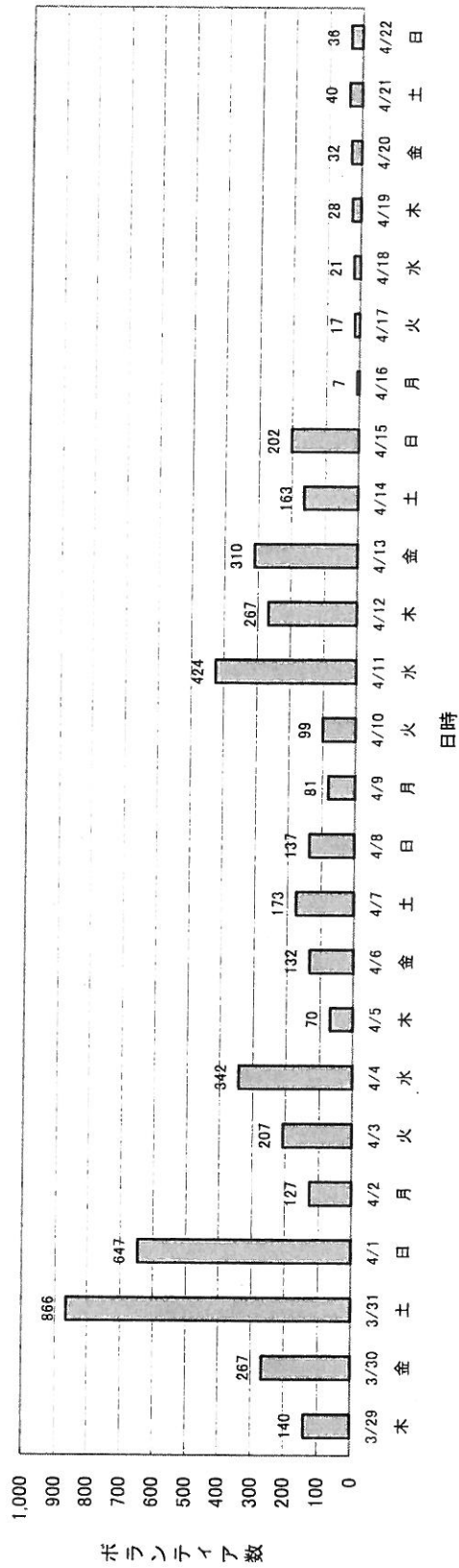


◆ 輪島 ■ 門前 ● 穴水

シヤトルバス運行結果

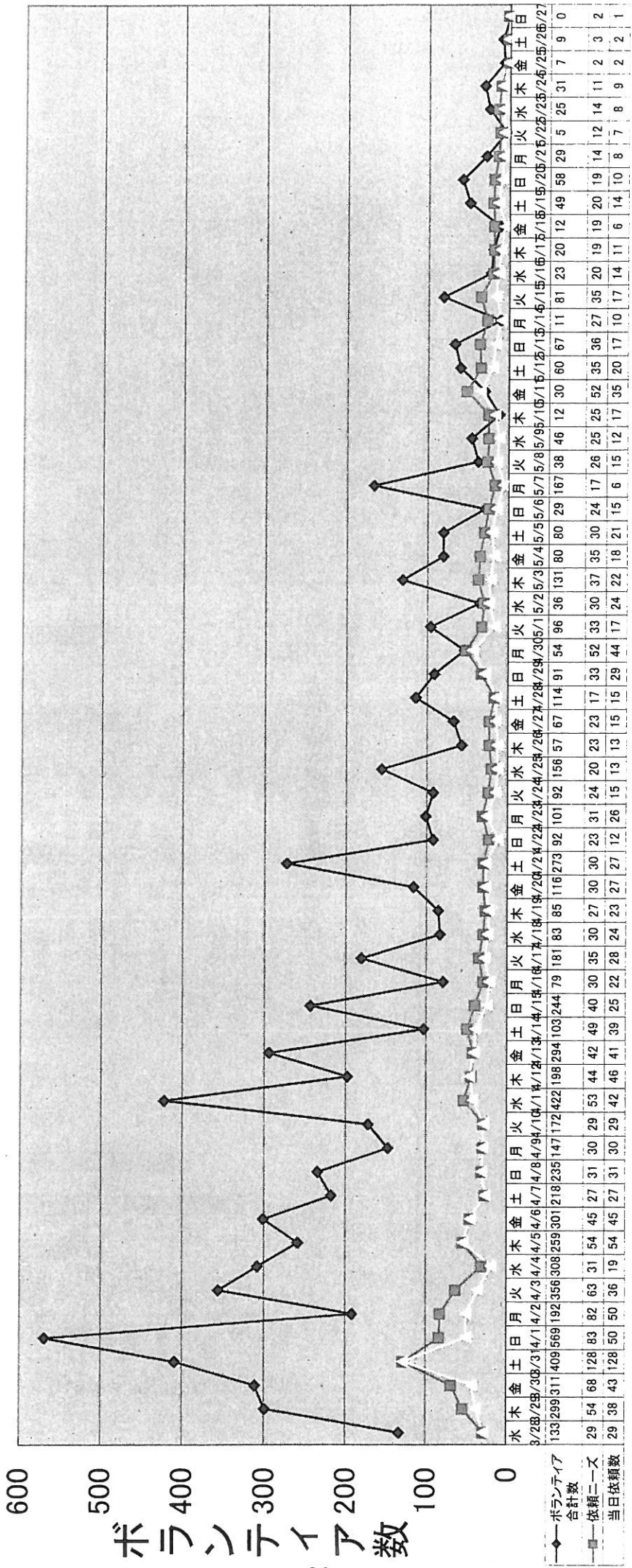
日時	3/29(木)	3/30(金)	3/31(土)	4/1(日)	4/2(月)	4/3(火)	4/4(水)	4/5(木)	4/6(金)	4/7(土)	4/8(日)	4/9(月)	4/10(火)
ボランティア数(人)	140	267	866	647	127	207	342	70	132	173	137	81	99
バス数(台)	5	6	21	20	5	6	9	2	4	5	4	2	4
日時	4/11(水)	4/12(木)	4/13(金)	4/14(土)	4/15(日)	4/16(月)	4/17(火)	4/18(水)	4/19(木)	4/20(金)	4/21(土)	4/22(日)	計
ボランティア数(人)	424	267	310	163	202	7	17	21	28	32	40	36	4,835
バス数(台)	12	8	8	8	7	1	1	1	1	1	1	1	143

シヤトルバス利用ボランティア数



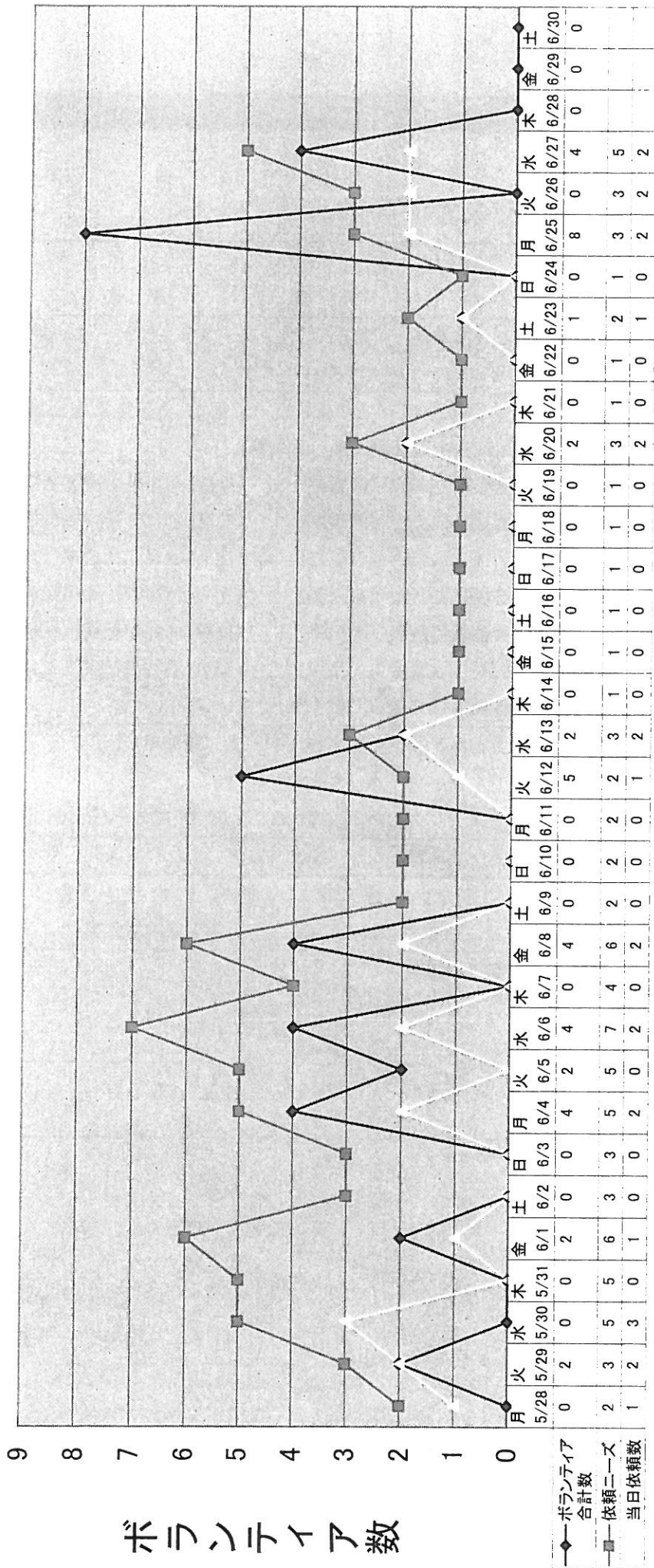
(参考)

輪島市災害ボランティアセンター 門前 ボラ数・ニーズ件数



◆ ボランティア合計数
 ■ 依頼ニーズ
 当日依頼数

輪島市復興支援ボランティアセンター 門前 ボラ数・ニーズ件数



ボランティア合計数
 ニーズ件数
 当日依頼数

Ⅲ. 人員派遣状況

能登半島地震における派遣状況（支援P）

	のべ 人数	団 体 名、 社 協 名 （ 県 名 ）
スーパー バイザー	93	(有)コラボねっと〈兵庫県〉、(特非)レスキューストックヤード〈愛知県〉 JPCom〈大阪府〉
社会福祉 協議会	126	(社福)青森県社会福祉協議会〈青森県〉、(社福)大分県社会福祉協議会〈大分県〉 (社福)神戸市長田区社会福祉協議会〈兵庫県〉 (社福)宮城県社会福祉協議会〈宮城県〉、(社福)高知県社会福祉協議会〈高知県〉 (社福)愛媛県社会福祉協議会〈愛媛県〉、(社福)春日町社会福祉協議会〈愛知県〉 (社福)阪南市社会福祉協議会〈大阪府〉、(社福)練馬区社会福祉協議会〈東京都〉 (社福)立川市社会福祉協議会〈東京都〉、(社福)竹田市社会福祉協議会〈大分県〉 (社福)中津市社会福祉協議会〈大分県〉、(社福)高島市社会福祉協議会〈滋賀県〉 (社福)山武市社会福祉協議会〈千葉県〉、(社福)安城市社会福祉協議会〈愛知県〉 (社福)名古屋市社会福祉協議会〈愛知県〉
NPO	68	(特非)にいがた災害ボランティアネットワーク〈新潟県〉、 日野ボランティアネットワーク〈鳥取県〉、 (特非)レスキューストックヤード〈愛知県〉、(特非)高知市民会議〈高知県〉
事務局	68	(有)コラボねっと〈兵庫県〉
後方支援	24	(社福)中央共同募金会〈東京都〉、(特非)日本 NPO センター〈東京都〉、 日本経団連 1%クラブ〈東京都〉、三井住友海上火災保険株式会社
全社協	11	(社福)全国社会福祉協議会
計	390	

能登半島地震における派遣状況（参考：社会福祉協議会）

	のべ 人数	団体名、社協名（県名）
東海北陸 ブロック関係	493	(社福) 福井県社会福祉協議会〈福井県〉、(社福) 福井市社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) 越前市社会福祉協議会〈福井県〉、(社福) 越前町社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) おおい町社会福祉協議会〈福井県〉、(社福) 大野市社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) 勝山市社会福祉協議会〈福井県〉、(社福) 坂井市社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) 鯖江市社会福祉協議会〈福井県〉、(社福) 敦賀市社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) 敦賀市社会福祉協議会〈福井県〉、(社福) 美浜町社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) 永平寺町社会福祉協議会〈福井県〉 (社福) 富山県社会福祉協議会〈富山県〉、(社福) 富山市社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 射水市社会福祉協議会〈富山県〉、(社福) 魚津市社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 黒部市社会福祉協議会〈富山県〉、(社福) 小矢部市社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 高岡市社会福祉協議会〈富山県〉、(社福) 立山町社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 礪波市社会福祉協議会〈富山県〉、(社福) 南砺市社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 滑川市社会福祉協議会〈富山県〉、(社福) 朝日町社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 入善町社会福祉協議会〈富山県〉 (社福) 愛知県社会福祉協議会〈愛知県〉、(社福) 名古屋市社会福祉協議会〈愛知県〉 (社福) 春日井市社会福祉協議会〈愛知県〉、(社福) 江南市社会福祉協議会〈愛知県〉 (社福) 豊橋市社会福祉協議会〈愛知県〉、(社福) 碧南市社会福祉協議会〈愛知県〉 (社福) 阿久比町社会福祉協議会〈愛知県〉 (社福) 岐阜県社会福祉協議会〈岐阜県〉、(社福) 岐阜市社会福祉協議会〈岐阜県〉 (社福) 大垣市社会福祉協議会〈岐阜県〉、(社福) 可児市社会福祉協議会〈岐阜県〉 (社福) 羽島市社会福祉協議会〈岐阜県〉、(社福) 瑞穂市社会福祉協議会〈岐阜県〉 (社福) 安八町社会福祉協議会〈岐阜県〉、(社福) 七宗町社会福祉協議会〈岐阜県〉 (社福) 三重県社会福祉協議会〈三重県〉、(社福) 津市社会福祉協議会〈三重県〉 (社福) 鈴鹿市社会福祉協議会〈三重県〉、(社福) 松阪市市社会福祉協議会〈三重県〉 (社福) 四日市市社会福祉協議会〈三重県〉、(社福) 菰野町社会福祉協議会〈三重県〉 (社福) 志摩町社会福祉協議会〈三重県〉
石川県内	454	(社福) 石川県社会福祉協議会、(社福) 加賀市社会福祉協議会 (社福) かほく市社会福祉協議会、(社福) 金沢市社会福祉協議会 (社福) 小松市社会福祉協議会、(社福) 珠洲市社会福祉協議会 (社福) 能美市社会福祉協議会、(社福) 能登町社会福祉協議会、 (社福) 白山市社会福祉協議会、(社福) 羽咋市社会福祉協議会 (社福) 宝達志水町社会福祉協議会、(社福) 輪島市社会福祉協議会 (社福) 穴水町社会福祉協議会、(社福) 内灘町社会福祉協議会 (社福) 川北町社会福祉協議会、(社福) 志賀町社会福祉協議会 (社福) 中能登町社会福祉協議会 (社福) 野々市社会福祉協議会
計	947	のべ人数

Ⅲ. 物資活用状況

能登半島被災地支援 企業からの物資提供リスト 〔災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 コーディネート分のみ〕

2007年7月3日 順不同

〔物品名〕

レンタカー、複合機、印刷機、プリポートマスター、プリポートインキ、コピー用紙、携帯電話
デジタルカメラ、救急箱、寝袋、懐中電灯、災害用テント、シャワー付タンク、看板、長机、
オフィス机、オフィスイス、会議室用イス、ホワイトボード、冷蔵庫、コーヒーマーカー
丸テーブル、FAX機能付電話、テレビ、ビデオデッキ、ウインドブレーカー、水（500ml）
お茶（500ml）、ドキュメントケース、ノート5冊パック、液体のり、ハサミ、消しゴム（2個パック）
ペンケース、下敷き、鉛筆、サイコロキャラメル（5個組）、石鹸類、タオル類、軍手、
ウェットティッシュ、チェルシー、スナック菓子、ジュース、お茶、アメ、15cm定規
クリップ・クリップ入れ、3色サインペン、メモ帳、A4ノート、エンピツ、ベビーパウダー
日焼け止め剤、乳児用おしりふき、虫除けティッシュ、歯磨きティッシュ、ショッピングバッグ
おかゆ、ロゴ入りスーパーバッグ、女性用ズロース、女性用シャツ、女性用ソックス
男性用ももひき、パンツ、男性用シャツ、婦人用シャツ、紳士長袖シャツ、紳士半袖シャツ
紳士ブリーフ、紳士ズボン下、紳士トランクス、ソックス、ショッピングバッグ、卓上カレンダー
壁掛けカレンダー、ビール、色鉛筆、スタンド式クリーナー、電気温冷蔵庫、シャンプー&リンス
ボディソープ、石けん、ハンドタオル、ぬいぐるみ、エコバッグ、4色ボールペン
ハイポトニック飲料、エプロン、ポリエステル原反、フードプロセッサ

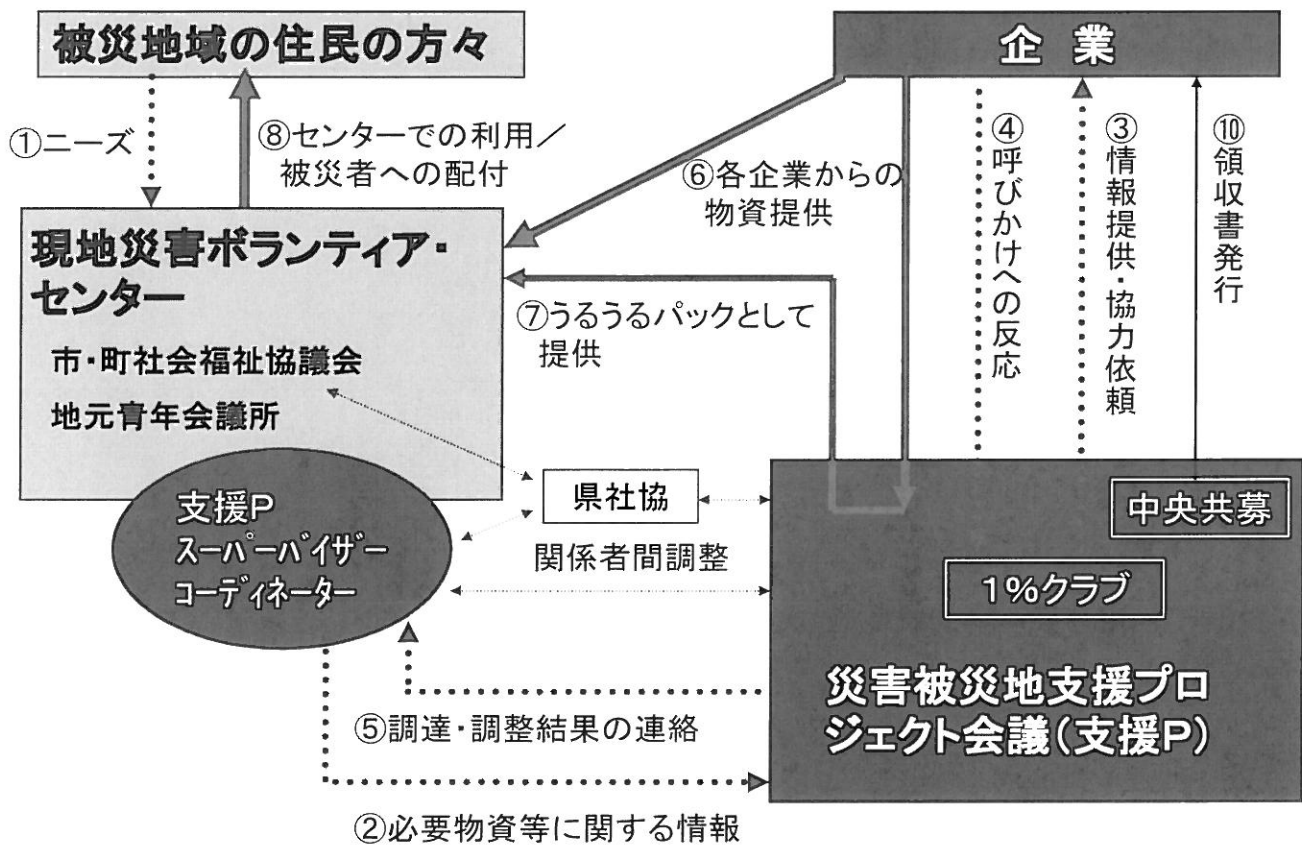
〔提供企業〕

トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、キャノンマーケティングジャパン(株)、リコー(株)、
ソフトバンクテレコム(株)、ソフトバンクモバイル(株)、キャノン(株)、コールマンジャパン(株)
ソニー(株)、三井住友海上火災保険(株)、ミズノ(株)、伊藤忠商事(株)、アサヒビール(株)、コクヨ(株)、
(株)三菱東京UFJ銀行、明治製菓(株)、(株)資生堂、花王(株)、三菱地所(株)、日本たばこ産業(株)、
(株)エーワン精密、東京電力(株)、日産自動車(株)、三井住友海上火災保険(株)、東京ガス(株)、
キッコーマン(株)、(株)損害保険ジャパン、東京海上日動火災保険(株)、ユニ・チャーム(株)、
(株)大和証券グループ本社、明治製菓(株)、カルビー(株)、アサヒビール(株)・アサヒ飲料(株)、
アサヒフードアンドヘルスケア(株)、住友商事(株)、松下電器産業(株)、旭精機工業(株)、和光堂(株)、
(株)伊勢丹、味の素(株)、グンゼ(株)、住金物産(株)、日本毛織(株)、(株)伊勢丹、旭精機工業(株)、
アサヒビール(株)、日本電気(株)、コスモ石油(株)、(株)資生堂、(株)ダイエー、本田技研工業(株)、
味の素(株)、白井松新薬(株)、1%クラブ

支援Pコーディネート分の物資やサービスを金額換算すると・・・

1,630万円相当

<物資提供の流れ>



IV. 資金活用状況

1 能登半島地震災害義援金関係

● 能登半島地震災害義援金受入状況

団体名	件数 (件)	金額 (円)	備考
石川県	22,658	1,664,600,989	6月27日現在
日本赤十字社石川県支部	37,852	754,205,979	6月27日現在
石川県共同募金会	3,617	198,828,174	6月26日現在
合計	64,127	2,617,635,142	

* 石川県共同募金会に対する1%クラブ関係の企業様からのご寄付は、120社・約4000万円。

● 石川県能登半島地震災害義援金配分委員会

第1回 平成19年4月24日(火) 13:30~

- 【議題】
- ・被災の状況
 - ・義援金受入状況 1,335,081千円(4月20日現在)
 - ・配分基準
 - 死者 400,000円
 - 重傷者 350,000円
 - 全壊 700,000円
 - 半壊 350,000円
 - 一部損壊 15,000円

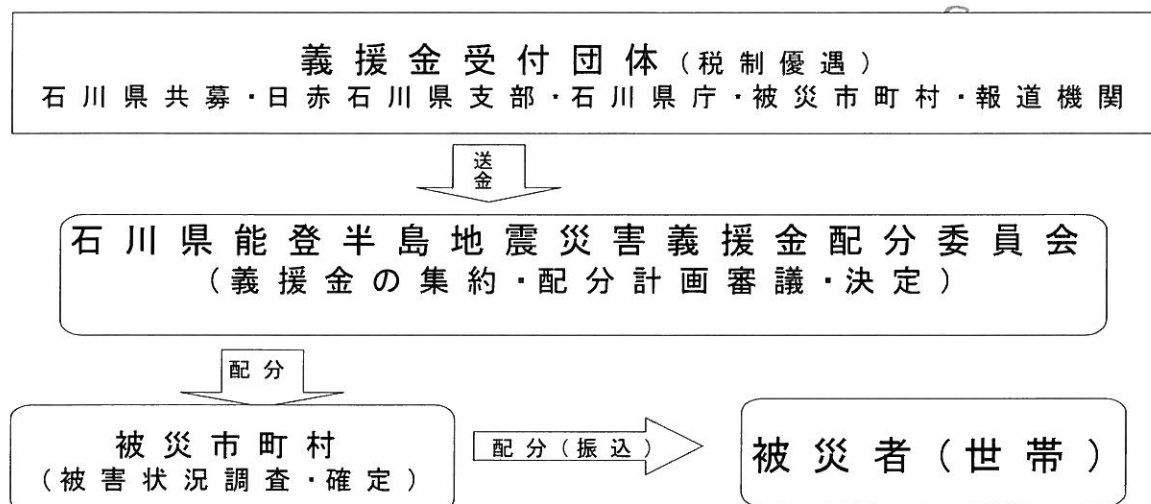
※ 当初配分は、義援金総額(4月20日現在)の90%

- ・配分時期 4月25日から順次配分(約週1回ペース)

※ 詳細は、別紙の「能登半島地震災害義援金配分状況」(県厚生政策課提供)参照

第2回 平成19年7月下旬頃を予定

義援金配分の流れ(例:能登半島地震)



能登半島地震災害義援金配分状況

石川県能登半島災害義援金配分委員会は市町に対し下表のとおり、義援金を配分しており、市町から被災者に配分が行われます。

※配分基準 死者400千円、重傷者350千円、全壊700千円、大規模半壊・半壊350千円、一部損壊15千円

(単位:件数、千円)

市町名	(単位:件数、千円)														合計
	七尾市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	津幡町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町			
第1回 平成19年 4月25日	件数	2	1			2			5		5	16		31	
	金額	1,050	350			700			2,800		3,150	10,150		18,200	
第2回 5月1日	件数								11			47		58	
	金額								4,200			22,750		26,950	
第3回 5月10日	件数	380												380	
	金額	18,185												18,185	
第4回 5月15日	件数		9			4			32			34		79	
	金額		6,000			2,100			11,900			18,550		38,550	
第5回 5月22日	件数	1,220	2,148				7			1	50		47	3,473	
	金額	38,535	62,990				105			15	1,085		3,050	105,780	
第6回 5月29日	件数					24	3		50	9	335	249		670	
	金額					360	45		17,500	470	5,025	18,425		41,825	
第7回 6月1日	件数	794	194			5			1,237	5		152	69	2,456	
	金額	38,890	94,150			2,100			31,300	75		2,280	1,035	169,830	
第8回 6月14日	件数	693	3,918				1			3		244		4,859	
	金額	11,065	66,475				15			380		3,995		81,930	
第9回 6月19日	件数	713	1,627				7			2				2,349	
	金額	24,520	174,430				2,830			30				201,810	
合計	件数	3,802	7,897	0	0	35	18	0	1,335	20	390	742	116	14,355	
	金額	132,245	404,395	0	0	5,260	2,995	0	67,700	970	9,260	76,150	4,085	703,060	

石川県能登半島災害義援金配分委員会(事務局:石川県健康福祉部厚生政策課 TEL076-225-1411)

(参考)災害義援金配分額比較例

災害名(発生年)	義援金総額	全壊世帯平均額
雲仙普賢岳噴火(1990~94)	171億円	200万円
北海道南西沖地震(1993)	190億円	400万円
阪神大震災(1995)	1700億円	40万円
有珠山噴火(2000)	22億円	500万円
鳥取西部地震(2000)	2.3億円	10万円
新潟豪雨災害(2004)	8億円	20万円
新潟中越地震(2004)	348億円	380万円
福岡西方沖地震(2005)	10億円	100万円
石川県能登半島地震(2007)	26億円 (現在募集中)	40万円 (第1次配分額)

2 災害等準備金(石川県共同募金会)関係

● 災害等準備金交付状況

- ・「活動拠点事務所」への交付(県市町災害ボランティアセンターへ)

(単位:円)

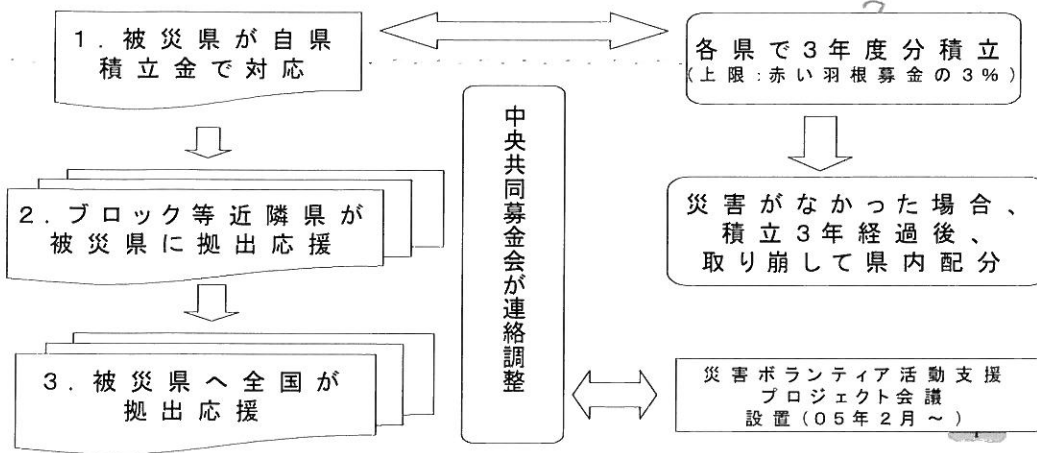
交付先	第1次	第2次	合計
輪島市社会福祉協議会	2,000,000	1,000,000	3,000,000
輪島市災害ボランティアセンター門前	1,000,000	1,000,000	2,000,000
輪島市災害ボランティアセンター輪島	1,000,000	0	1,000,000
穴水町社会福祉協議会	1,000,000	0	1,000,000
穴水町災害対策ボランティア現地本部	1,000,000	0	1,000,000
石川県社会福祉協議会	0	4,500,000	4,500,000
石川県社協災害ボランティア対策本部	0	4,500,000	4,500,000
合 計	3,000,000	5,500,000	8,500,000

● 交付について

交付	交付年月日
第1次	平成19年4月6日(金)
第2次	平成19年6月8日(金)

※ 第1次、第2次ともに、概算払いにて交付

準備金制度の運用



● その他

- ・市町災害ボランティアセンターの経費については、災害等準備金の交付による資金のほかに、石川県災害対策ボランティア本部が県民ボランティア基金を取り崩し、災害ボランティア活動に係る物資の調達を目的として支援された（支援額について現段階では未公表）。

3 ボランティア活動資金

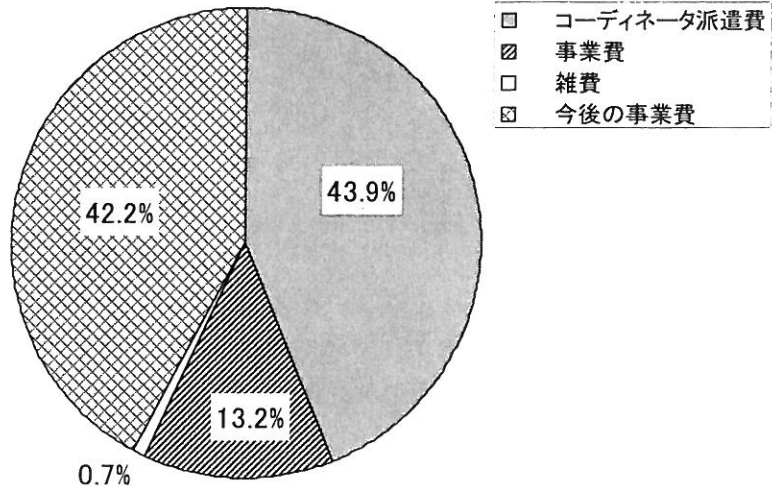
● 設置の経緯

- ・ 中越地震を機に、「災害ボランティア活動資金」として企業(含 社員募金)からの寄付受入窓口を、中央共同募金会に開設。全国各地のNPOのコーディネート費、救援物資の運搬・調整費、中長期的な被災地主体の復興プロジェクト助成などとして活用される。寄付が必要以上に集まった場合には、全国で発生する今後の災害に備えて積み立てる。

● 能登半島地震関連の寄付

- ・ 寄付金額： 20,281,013 円 (16企業・団体、3個人)

● 能登半島地震関連の支出



費 目	金額(円)
コーディネータ派遣費	8,894,269
(内訳) 旅費交通費	(2,339,443)
レンタカー代	(755,322)
宿泊費	(1,929,120)
派遣手当	(3,870,384)
事業費	2,679,152
(内訳) 活動費	(1,435,949)
うるうるパック、物資配布費	(1,243,203)
雑費	149,689
(内訳) 雑費	(25,360)
派遣経費関連振込料	(26,459)
保険料	(97,870)
今後の事業費	8,557,903
(内訳・予定) 助成事業	(3,500,000)
調査・検証・情報発信	(3,057,903)
次の災害時の初動基金	(2,000,000)
計	20,281,013

「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の取り組み

1. 「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」(支援P)とは

企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会が協働し、災害対応力の強化に向け、人材、資源・物資、資金の有効活用を促す仕組みづくりの実現など、災害ボランティア活動の環境整備をめざしており、被災地主体のボランティア活動に寄与するため、新潟中越地震を契機に、2005年1月に中央共同募金会に設置された(昨年までの旧名称:災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議)。

これまでに、新潟中越地震時の災害ボランティア活動の状況調査(「～ひとり一人の気づきを地域のカへとつなげるために～『災害ボランティア活動センター』の運営と支援に関する調査事業報告書」(平成18年3月発行))、被災地復興活動を行うNPOへの助成、会議・フォーラムの開催(3月26日・東京・「災害ボランティア活動の充実をめざす対話フォーラム」(企業・NPO・社協・共募関係者が・・・初!? 出会う集い))などの活動を行ってきた。

また、2006年夏、長野県、鹿児島県、島根県等で発生した豪雨水害時、さらには、本年3月25日に発生した石川県能登半島地震災害において現地災害ボランティアセンターの側面的支援などを行っている。

今回の能登半島地震災害では、災害ボランティアセンター支援を重点テーマとし、人・もの・お金の効果的な活用をお手伝いしている。

2. 能登半島地震災害に際しての支援概要

(1)もの

- ① 日本経団連1%クラブとの連携による現地災害ボランティアセンターの備品や車両(リース)などを企業からの寄付を募って実施(調整を支援Pが行い、現地の負担を減らす)

詳細は、<http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/lp-club/>

- ② 各市町災害ボランティアセンター(社会福祉協議会＝社協)等を通じて、被災されたみなさまへの生活支援の一助としてお見舞い品(うるうるパック)の提供。

日本経団連と1%クラブ会員企業への協力要請を通じ寄せられた物資をパック化し、現地社協に提供。

ア. 基本パック:せつけん、タオル、ティッシュ等、3,000パック

(民生委員等による見守り訪問の際に活用してもらう)

イ. こども向けパック:ノート、鉛筆、消しゴム、ペンケース等、1,000パック

(輪島、穴水地区の小中学生に対し、入学、始業のプレゼント等として現地社協から提供)

- ③ うるうるパックは、日本経団連1%クラブの呼びかけにより物品提供に協力いただいた各企業ならびにレスキューストックヤードさらにはボランティアによる袋詰め・発送協力をはじめとした支援Pの構成団体の協働により実現している。

(2)ひと

ブロック派遣社会福祉協議会スタッフと現地災害ボランティアセンター・社協の支援のためのスーパーバイザーやアドバイザーを派遣(派遣者は、全社協主催の災害ボランティアコーディネータ

ー研修の講師および研修受講生)

(3)おかね

- ①共同募金「災害準備金制度」の活用アドバイスなどを実施
- ②災害ボランティア活動資金の受け入れ

日本経団連と1%クラブが会員企業に呼びかけ、救援物資の運搬・調整費、中長期的な被災地主体の復興プロジェクト、ボランティア支援に関する経費等への助成のため、企業の寄付や社員募金の受け入れを実施。

(4)情報発信

とくに、能登半島地震災害支援活動においては、関係者によるメーリングリストを立上げ、地元、派遣コーディネーター、構成団体間で情報の共有と発信を行った。

(5)今後の取り組み予定

- ①協力企業対象に報告会の共催(日本経団連1%クラブ主催・平成18年7月3日)
- ②能登半島地震被災地における、市民による復興活動への助成事業の実施(7月に申請募集予定)

2. 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議委員名簿(順不同)

栗田暢之 (レスキューストックヤード代表理事)、桑原英文 (JPCOM 代表)
渋谷篤男 (全国社会福祉協議会地域福祉部部長・全国ボランティア活動振興センター所長)、
関尚士 (シャンティ国際ボランティア会国内事業課長)、鷹尾大英 (福井県共同募金会主査)
田尻佳史 (日本 NPO センター事務局長)、長沢恵美子 (日本経団連ワンパーセントクラブコーディネーター)
中島孝夫 (神奈川県共同募金会事務局次長)、鳴海孝彦 (青森県社会福祉協議会地域福祉部部長、
ボランティア・市民活動センター所長)、山ノ川実夏 (三井住友海上火災保険株式会社広報部 社会貢献
室課長代理 兼経営企画部CSR推進室課長代理)
石井布紀子((有)コラボねっと取締役)、阿部陽一郎 (中央共同募金会企画広報部副部长)

3. 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議共同事務局

社会福祉法人中央共同募金会企画広報部企画課

〒100-0013 千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5 階

TEL 03-3581-3846 FAX 03-3581-5755

E-mail kikaku@c.akaihane.or.jp

有限会社コラボねっと

〒663-8201 西宮市田代町 14-8-105

TEL 0798-64-5849 FAX 0798-65-5254

E-mail info@collabonet.net

能登半島地震復興支援事業～市民による復興活動助成～助成要項（案）

2007年7月3日

1. 名称

能登半島地震復興支援事業～市民による復興活動助成～

2. 趣旨

2006年3月25日に発生した能登半島地震発生に伴い、被災地では、現地の災害ボランティアセンターを中心に支援活動が展開されました。企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等が協働したネットワークの「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（以下、支援P会議と略す）」では、そうした地元主体の活動が効率的、効果的に展開できるよう、コーディネーターの派遣、救済物資の調整、プログラムの実施などを通じて地元をサポートしてきました。

この助成事業は、支援P会議のプロジェクトの一環として、被災地の復興に向けた活動支援の一助となることを目的に、各企業から中央共同募金会に寄せられた寄付金を活用し実施するものです。

3. 支援対象(要件)

能登半島地震被災地で復興支援の活動を行う団体・グループ

- 法人格の有無は問わない
- 団体・グループの所在地は石川県内・県外を問わない
- 特定の企業、政党、宗教団体などから独立して運営されていること
- その活動・事業から生じる利益を構成員に分配しないこと
- 活動の内容や財務の状況を自ら公開できること
- 活動実施団体・グループの事業計画、予算・決算等が整備されていること

4. 助成の対象となる活動の期間と活動内容

(1) 活動期間

2007年9月から2008年9月までに実施予定の活動（現在、継続して実施中の活動も含みます）

(2) 活動内容

たとえば、コミュニティづくり、人材育成、子育て支援・子どもの活動など、被災地復興のためのプロジェクト活動であること。

対象プロジェクトは、①すでに開始され継続して実施予定の活動のほか、②被災以前に実施していたが、被災により中断していた事業を再開するもの、③助成期間中に新たに立ちあげる活動、も対象とします。

5. 助成総額

300万円

6. 1件あたりの助成額

- (1) プロジェクト助成A：1件の上限額 100万円（2件程度）
- (2) プロジェクト助成B：1件の上限額 20万円（5件程度）

* 選考の結果、申請額から減額する場合があります。

*一団体につき一つのプロジェクト事業のみ応募できます。自団体の活動内容を十分に勘案して応募してください。

7. 対象費目

活動や事業に必要な直接経費のほか、人件費等の間接経費も対象とします。

8. 選考基準

- (1) 目標や問題意識が明確になっているか
- (2) 被災地で暮らす人たちの潜在的な力を引き出し、高めていこうとしているか
- (3) 被災地での新しい社会的事業・活動へと発展する可能性があるか
- (4) さまざまな人たちの参加と協力が得られているか
- (5) プロジェクトを実施するための手法が明確で適切か

9. 選考方法および決定時期

- (1) 選考方法
関係団体により選考委員会を設置し、上記選考基準に基づいて検討し、決定します。
- (2) 決定時期
9月上旬(予定)
- (3) 選考委員会による決定後、助成の可否についての決定通知を送付します(必要に応じて決定より1か月以内に助成金を送金します)。

10. 事業報告書等の提出

- (1) 事業の終了後1か月以内に収支報告および事業報告(写真等添付)を提出していただきます。
- (2) 助成決定事業に関して、実施中の活動や事業の案内(チラシ等)について適宜情報提供していただく場合があります。
- (3) その他、必要に応じて中間報告や追加資料の提出を依頼する場合があります。これは本事業の趣旨と成果をより多くの方々にご理解いただくため、提供いただいた資料・写真・報告内容等を適宜公開させていただく趣旨ですので、あらかじめご了承ください。

11. 応募方法

- (1) 別紙「申請書」に必要事項を記載し関係資料を同封し、下記送付先まで送付してください(必要に応じて、別途Eメールで申請書を送付していただく場合があります)。
- (2) 応募期間
2007年7月11日(月)～8月31日(金) 当会必着

12. 照会先・送付先

中央共同募金会企画広報部企画課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル5階

電話 03-3581-3846 FAX 03-3581-5755

E-mail kikaku@c.akaihane.or.jp

能登半島復興プロジェクトとは

「能登半島復興プロジェクト」とは、被災事業所をはじめ、全国の企業・団体・個人の方々に復興支援シールを購入していただき、商品などに貼り付けて全国へ流通させることで復興の輪を広げるとともに、蓄積された支援金をもって被災地の復興に役立てようとする、個人から企業・団体、どなたでも参加が可能な新しいボランティアの形を推進するプロジェクトです。

全国の皆様と被災地との協働・循環型の復興モデルとして、新潟県中越地震の際に実施された実績がある確立したプロジェクトです。

目 的

○経済復興と能登半島のPR

被災地において復興をめざす事業所や、被災地の復興を願う事業所においては、販促ツールとして大いに活用して頂けます。行政や個人の皆さまにおいては、能登半島地震からの復興を願うという意味を表示するツールの一つとして活用して頂けます。

能登半島は国定公園や景勝地、名刹が多くあり、これらを中心として様々な繋がりを形成し経済基盤を築いてまいりました。能登半島の住民の心の拠り所や、生活基盤の原点が崩壊しているなかで、震災からの復興を元気に前向きに行っていくというメッセージをシールに込めて能登半島をPRしてまいります。

○復興意欲の向上と地震の風化防止

被災地においては、シールを見ることにより「復興に向けてがんばろう」という復興意欲を向上させて頂くツールとします。

全国の被災地の復興を願う皆さまにおいては、シールを使用させて頂くことにより身近に被災地を応援して頂けるとともに被災地との繋がりを実感できるためのツールとなることを期待しています。

このシールが全国的に流通することによって、震災で得た様々な教訓や活動の結果を今後の有事の際に役立たせるといった意味において風化の防止に繋がてまいります。

○復興支援金の確保

このシールにより発生する復興支援金は、能登半島に所在する行政や経済団体、公益法人の長により構成される「能登半島復興プロジェクト会議」の公正な審査のもと、経済・環境・文化・教育などの各分野における復興支援金として活用します。支援金活用については、現段階ではどれだけの額となるか不明なので、販売終了後にホームページにおいて公表します。

復興支援金の使途はホームページ上で誰もが提案できるようにするほか、様々なご意見を頂いた上で、公正なる審査の上で決定します。これらのことはホームページ上で誰もが閲覧できるようにすることで公開性を持たせ、このプロジェクトに賛同して頂きシールを利用された皆さまに復興支援金がどのように活用されたのかを明確にお知らせします。

実施期間

○シールの販売期間

2007年6月27日より2008年3月25日

能登半島復興プロジェクト会議

○会議体構成メンバー

梶 文秋	輪島市長
里谷 光弘	輪島商工会議所 会頭
谷内江 昇	社会福祉法人 輪島市社会福祉協議会 会長
前山 英規	社団法人 七尾青年会議所 理事長
中市 英輝	社団法人 珠洲青年会議所 理事長
西山 徹	のと青年会議所 理事長
藤田 和也	社団法人 輪島青年会議所 理事長

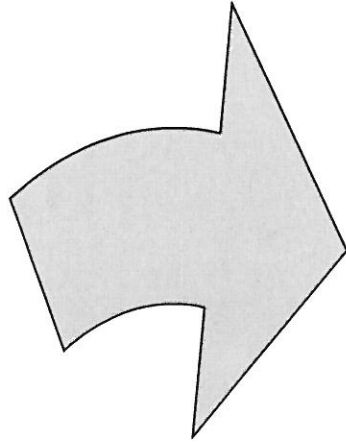
※順次増員します。

シールでできるボランティアの仕組み

- ◎シール購入代金の一部が復興支援金となります。
- ◎シールは、能登半島地震により被災した方や被災地の経済復興のため、能登半島のPR、風化の防止に使われます。
- ◎能登半島に居住する皆さまや全国の復興を願う皆さまは、誰でもホームページ等を見て頂きシールをご購入頂けます。シールをご購入頂いた時点で、その一部が復興支援金となります。
- ◎シールを商材などに貼付け店頭や衆目のあるところに陳列することで、被災者や支援者の皆さまの目にとまり、復興意欲の向上や能登半島のPR、地震風化の防止に繋がります。
- ◎シールを貼ることで商材等の注目度が増し、企業としての社会貢献が消費者に認知されることで経済効果の向上が期待されます。
- ◎消費者はシールを貼った商品を購入することでプロジェクトに間接的に参加されたこととなります。また、シールに記載されている当プロジェクトのホームページにアクセスして頂き、新たな応援者（購入者）として当プロジェクトに直接参加する循環効果も起きてまいります。
- ◎個人・グループの方も郵便物や小物、名刺などにシールをご利用頂くことで次ページの図と同様の循環効果が得られます。
- ◎被災地事業所、個人・グループの方々もシールをご利用頂くことで同様の循環効果が得られます。

◎シールを購入

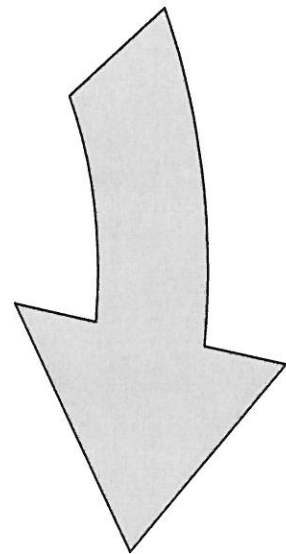
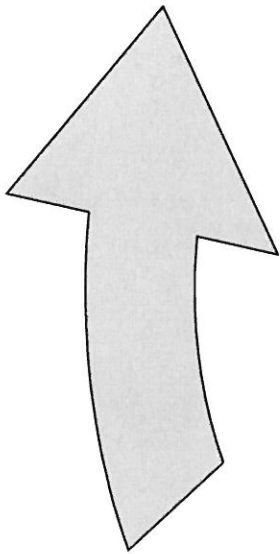
- ・シール購入代金の一部が復興支援金になり、能登半島復興のために使われます。



◎シールを商品などに貼る

- ・商品の注目度アップ
- ・企業の社会貢献によるイメージアップ

能登半島
復興シール
を使った
サイクル



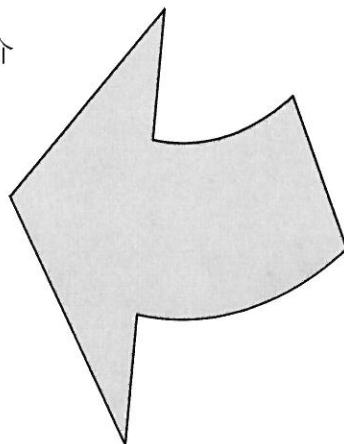
◎能登半島復興プロジェクト

ホームページを見る

- ・能登半島復興をPR
- ・プロジェクトの活動紹介

◎シールを貼った商品の購入

- ・間接的に能登半島復興を支援
- ・能登半島復興プロジェクトに賛同



復興シールの定義

「がんばってます！」復興シール

- 購入対象者：能登半島に在住・所在する個人・企業・団体
- 販売価格：100枚入り 150円
1万枚入り 1万円
- 特注対応：サイズ変更や基本絵柄、ロゴの変更は不可。
ただし能登半島〇〇の〇〇部分は変更可能
30万枚（30万円）から対応
- 著作権対応：自治体・その他の団体・企業 5万円
ただし使用目的については許可が必要

「元気です！」復興シール

- 購入対象者：能登半島に在住・所在する個人・企業・団体
- 販売価格：100枚入り 150円
1万枚入り 1万円
- 特注対応：サイズ変更や基本絵柄、ロゴの変更は不可。
ただし能登半島の後に追加文字2文字まで対応可能
30万枚（30万円）から対応
- 著作権対応：自治体・その他の団体・企業 5万円
ただし使用目的については許可が必要

「応援します！」復興シール

- 購入対象者：全国の個人・企業・団体
(珠洲市・輪島市・七尾市・能登町、志賀町の購入は不可)
- 販売価格：100枚入り 200円
1万枚入り 1万5千円
- 特注対応：サイズ変更や基本絵柄、ロゴの変更は不可
- 著作権対応：自治体・公益法人・その他の団体・企業 1枚につき1円

復興フランチャイズパック

- 購入対象者：全国の個人・企業・団体
(店頭や窓口等での設置販売を目的とした支援者の方にシールをご購入頂き、多くの方にシールの購入を呼びかけて頂くシステムです。)
- 販売価格：復興シール3種類(各10袋(1,000枚)入り)・
ディスプレイケース1箱付 1パック 5,500円

能登半島復興プロジェクトホームページ

<http://www.genkinoto.com>

※このページから様々な情報を発信してまいります。

能登半島復興プロジェクト 復興シールデザイン



復興シール「がんばってます！」

主に被災地である輪島市内の皆さまに使用して頂くことを目的としています。
復興に向け元気に頑張っていることをPRできます。



復興シール「応援します！」

被災地である能登半島を、応援していることをPRできます。
被災地以外の皆さまと被災地を結ぶツールともなります。



復興シール「元気です！」

能登半島の主産業の一つでもある観光にとって、元気であることが最高のおもてなしです。このシールを使用してより多くの皆さまに能登へ来て頂きたいと願っています。

復興シールデザイナー

石川県立輪島実業高等学校

情報ビジネス科 1年 川端 芽依 さん



能登半島 力こぶ

2007年6月28日

北國新聞

輪島青年会議所(JC)と輪島商工会議所などは二十七日までに、「能登半島復興プロジェクト会議」を設置し、収益を復興や能登PR、地震の風化防止などにつなげる狙いだ。支援金に充てる「復興シール」

科一年の川端芽依さんが、能登半島の頑張る姿をデザインした。能登在住者向けの「がんばってます」「元氣です」(百枚入り百五十円)と珠洲、輪島、七尾各市と能登、志賀の二町以外を対象にした「応援します」(同二百円)の三種類。収益の用途は同プロジェクト会議で審査し、ホーム

復興シール ネット販売

ページで公開するほか、提案も受け付ける。市役所で会見した藤田和也輪島JC理事長は「常にシールを目にすることで市民が復興に向けて心一つになればうれしい」と話した。市でも現在の「がんばる輪島」シールから順次、切り替えていくという。